

一般社団法人映像情報メディア学会
第 7 1 回 定時社員総会資料

2 0 2 5 年 5 月 3 0 日 (金) 1 4 時～

於 機械振興会館 + オンライン

一般社団法人映像情報メディア学会
第71回定時社員総会式次第

開催日時：2025年5月30日（金）14：00～16：00（予定）

会 場：機械振興会館6階6D-1, 2, 3会議室 + オンライン

議 長：鈴木教洋会長 司 会：樋口晴彦総務理事

式 次 第：

- ① 会長挨拶（鈴木教洋会長）
- ② 開会の辞（境田慎一副会長）
- ③ 2024年度事業報告審議（樋口晴彦総務理事）
- ④ 2024年度決算報告審議（坂東幸浩会計理事）
- ⑤ 2024年度監査結果報告（川前 治監事）
- ⑥ 2025年度役員の選任（松田一朗副会長）
- ⑦ 2025年度事業計画報告（藤井亜里砂総務理事）
- ⑧ 2025年度予算計画報告（三木圭輔会計理事）
- ⑨ 選奨選考結果（樋口晴彦総務理事）
- ⑩ 賞状賞牌贈呈
- ⑪ フェロー認定（藤井亜里砂総務理事）
- ⑫ フェロー認定証の贈呈
- ⑬ 受賞者・フェロー認定者代表挨拶
- ⑭ 永年勤続表彰（藤井亜里砂総務理事）
- ⑮ 退任役員代表挨拶（鈴木教洋会長）
- ⑯ 退任役員への謝辞（松田一朗副会長）

====休憩、この間に臨時理事会開催====

（総会再開） 司 会：藤井亜里砂総務理事

- ⑰ 2025年度役員担務の報告（松田一朗副会長）
- ⑱ 新会長挨拶（齋藤英雄新会長）
- ⑲ 閉会の辞（藤井俊彰副会長）

以上

2024年度事業報告

1. 総括（担当：樋口総務担当理事）

1946年に高柳健次郎委員長のもと「テレビジョン同好会」として発足した本会は、1955年の社団法人化、1996年の「映像情報メディア学会」への改称を経て、映像情報メディアに関する学理および技術の進歩・向上と普及を目的に活動してきました。会員間の交流はもとより、専門家集団として社会への貢献にも力を入れています。映像情報メディアはメディアの中核を担うものであり、映像に関わる機器、システム、方式など、広範な学問領域および技術を含む総合技術です。近年ではコンテンツ関連の技術も取り込み、活動の幅をさらに拡大しています。具体的な事業活動としては、機関誌や論文集の刊行、年次大会や冬季大会、研究会、講演会などのさまざまな事業活動を行っています。これらの運営にあたっては、理事会に加えて、専門分野ごとの委員会を設置し、円滑な運営に努めてきました。

本年度は、2024年5月の総会において下記の基本施策を設定して学会活動を進めてきました。

- (1) 学会の活性化
- (2) 新分野の開拓
- (3) 広報活動と会員サービスの拡充

2024年度の終了にあたり、上記施策の達成状況について以下にご報告いたします。

＜2024年度事業計画と達成状況＞

(1) 学会の活性化

2024年度の学会運営体制は、17名の理事を中心とし、目的別に設置された11の委員会を実行部隊として、理事会との情報共有を密に図りながら活動を展開しました。各委員会はアクションプランと申し継ぎ事項をもとに、学会活動の活性化と課題解決に取り組みました。

理事会は、全理事および監事が出席する定例理事会を8回開催し、今年度はそのうち4回を対面とオンラインのハイブリッド形式で実施しました。これにより、各理事の負担軽減を図りつつ重要案件の審議を集中的に行い、支部長や代表代議員の参加も得ることで、理事・支部・代議員が一体となった運営を推進することができました。

2024年度の学会予算は、研究会等のハイブリッド開催の増加を見込んで赤字予算（約1,4960万円）でスタートしました。技術報告の電子化、会誌作成費や大会関連経費の削減により支出を抑えた一方で、会費収入の減少や事務局長交代に伴う人件費増などが影響し、最終的な赤字は約1,600万円となりました。

学会活性化に向けた最重要課題である会員増加については、2022年度に改定されたアカデミックパートナー制度を最大限に活用し、特に若手研究者の新規会員獲得に努めました。この制度は、大学や高等専門学校などの研究室単位で会員登録できるものであり、一時は24研究室が登録、学生会員の約7割がこの制度によるものでした。近年は横ばい傾向にあるものの、引き続き継続的な訴求が必要と考えています。

学会本部と地方支部の連携強化のため、2024年度も各支部長または支部長代理に理事会へ出席いただき、理事会の動向を把握していただくとともに、年次大会時の支部長会議や支部大会における本部役員との直接対話を通じて意識の共有を図りました。支部長会議では、昨年度に続き本部と地方支部が抱える課題を共有し、効率的な運営に向けた率直な意見交換を対面で行いました。

本会独自の取り組みであるテストチャート頒布事業では、22.2マルチチャンネル標準音源Bシリーズにおいて、オブジェクトベース音響システムに対応した放送規格が国際標準化されたことを受け、ARIBと連携しながら、オブジェクトベース音響制作環境に適した標準音源の制作を進めてきました。来年度以降の頒布に向けて、音源評価や解説書の執筆を進めています。また、2022年4月に頒布を開始したCシリーズ第2版については、第1版購入者向けの割引頒布を周知したものの、引き合いが少ない状況が続いており、さらなる周知や対応策の検討が求められています。

(2) 新分野の開拓

新分野開拓の一環として、国内外の関連学会との連携強化を図りました。特に韓国放送メディア学会（KIBME: Korean Institute of Broadcast and Media Engineers）とは協力体制を構築し、本会年次大会では「KIBME/ITE Joint Special Section」と題したセッションを企画し、KIBME/ITEからそれぞれ2件の講演が行われました。また、11月に開催されたKIBME 2024秋季大会では、本会から基調講演を実施しました。5月には両学会の今後の連携方法や協力体制について意見交換を行い、継続的に連携強化を図っていくことで合意しています。この取り組みは、国際会議連携委員会の所掌事項として位置づけ、作業を進

めています。

また、本会は、SID (Society for Information Display) と共催する国際会議「IDW '24 (International Display Workshop)」に組織委員として参画しました。同ワークショップは2024年12月4日～6日に札幌コンベンションセンターで開催され、例年通り盛況のうちに終了しました。

年次大会の企画セッションでは、映像技術やネットワーク技術の急速な進化を背景に、大学・放送・通信・産業の各分野から登壇者を迎え、「映像情報メディアの将来を語る」と題したパネルディスカッションを実施しました。

学会誌では、「画像生成AIをめぐる法的・倫理的課題」「スマート農業・スマート漁業」など、映像情報メディアの枠を超えた、今後の広範な活用が期待される技術を取り上げた特集を企画しました。また、和文論文誌においても、各研究委員会との連携を強化し、特集号の充実や新テーマの企画に取り組みしました。

(3) 広報活動と会員サービスの拡充

学会ホームページ(本部・支部)やメールマガジン、各種SNSを通じた情報発信は、有効な広報手段として2024年度も積極的に活用しました。業界紙への広告出稿など、ターゲットを絞った効果的な広告戦略も引き続き展開しました。また、映像情報メディア学会の情報発信力を強化するため、ホームページの改修に向けて、現行サイトの課題抽出と追加機能の調査を進めており、今後は改修コンサルタントの活用も検討しています。

図書の企画・刊行活動では、学会誌掲載の連載講座や連載シリーズを学会ホームページ上で公開しました。「知っておきたいキーワード」「年報」「きらり。中のヒト」「ベンチャービジネス」は全文公開を継続し、連載講座はシリーズ完結後に全文を公開しています。また、機械翻訳による和英／英和翻訳版論文誌のWeb公開を、2024年7月よりトライアルとして開始しました。これまでに公開しているものを含めて、和英翻訳版26編、英和翻訳版15編の公開に向けて準備を進めています。

また、顕著な成果を挙げた会員に対して奨励・表彰を行いました。具体的には、丹羽高柳賞(業績賞1件、論文賞3編)、鈴木記念奨励賞(5名)、技術振興賞(進歩開発賞[現場運用部門]3件、進歩開発賞[研究開発部門]2件、コンテンツ技術賞2件)、映像情報メディア未来賞(1件)を贈呈しました。また、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本会の活動に顕著な貢献をされた会員の中から、2名をフェローに選定しました。さらに、長年にわたり在会いただいた会員の方を対象に会費を無料とする「ライフメンバー制度」については、引き続き、ライフメンバーによる講演会、セミナー、見学会などの自主的な活動を可能とする組織化を含めて検討する予定です。

協賛団体および会員各位のご理解とご協力のもと、2024年度も計画された事業を概ね遂行できました。今後も変化する社会情勢に対応しつつ、映像情報メディア分野の発展に貢献してまいります。引き続き、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

2. アクションプランの設定内容と達成状況

2024年度に設置された11の委員会のアクションプランの設定内容と達成状況を以下に示します。

① 広報委員会(担当: 秋田企画担当理事)

広報活動として、年次大会、冬季大会、研究会、支部主催セミナー、その他の学会事業活動について、ホームページ、メールマガジン(年間132通発行)、Facebook等で適宜情報発信を行いました。

映像情報メディア学会の情報発信力を強化するため、2023年度よりホームページの改修検討に着手し、役員、代表代議員、支部長を対象に現在のホームページの問題点や課題に関するアンケートを実施しました。それらの結果を基に2024年度は弊会と取引のある業者に概算見積もりを依頼しました。しかし、詳細仕様についての規定が未完であるため、引き続き改修内容の精査や要求仕様の設定、改修業者の選定や実施、改修後の持続的な品質維持管理の検討等について、検討を進める必要があります。

② 年次・冬季大会実行委員会(担当: 加藤調査担当理事)

2024年映像情報メディア学会年次大会は、実行委員会(委員長 境田慎一)において8月28日(水)～8月30日(金)の3日間の日程で、北海道立道民活動センター(かでの2.7)における会場+オンライン(zoom)のハイブリッド形式にて開催されました。年次大会実行委員会としては、準備のための委員会を2回、振り返りの委員会を1回実施しました。一般講演16部門98件、

招待講演 2 件、フォロー記念講演 3 件および企画セッション 5 部門 20 件の発表がありました。企画セッションの「映像情報メディアの将来を語る」では生成 AI という時宜を得たテーマ設定により、基礎研究から実用化まで幅広い視点での討議が実現しました。特にパネルディスカッションでは産学連携による知見の共有と議論の場として学会の活性化に期待を寄せる声が聞かれました。加えて、今年度は、韓国 KIBME の招待セッションも開催しました。また、リアル会場では支部長会議を年次大会と同時に開催することができました。延べ参加者数は 908 名でした。

2024 年映像情報メディア学会冬季大会は、実行委員会（委員長 松田一朗）において 12 月 24 日（火）、12 月 25 日（水）の 2 日間の日程で、東京理科大学 森戸記念館とオンライン（zoom）のハイブリッド形式にて開催されました。実行委員会としては、年次大会同様、準備のための委員会を 2 回、振り返りの委員会を 1 回実施しています。一般講演 13 部門 97 件、企画セッション 5 部門 20 件の発表がありました。年次大会に引き続き、生成 AI に関する 2 つの企画セッションには多くの参加者が集まり、魅力的な講演を行うことができました。延べ参加者数は 717 名でした。

③ 編集委員会（担当：小池編集担当理事）

今期は企画委員会を全 7 回開催し、そのうち 3 回については年次企画委員会をあわせて開催しました。委員会では、学会誌を通じた情報提供と学会員・維持会員社の満足度の向上に向けて、さまざまな観点から学会誌の在り方や企画内容について議論を交わしました。また、アクションプランに掲げた学会誌の電子化についてもより具体的な検討を進めました。

学会誌が学会員と学会を結ぶ重要な役割を担っていることを鑑み、会誌モニターや支部、研究委員会、編集幹事などからの意見や、世の中で話題となっているトピックを企画内容に反映し、学会員の多様なニーズに応えられるように心がけました。また、利便性を高めるため Web ページから会誌をダウンロードして閲覧できるようにするとともに、メールマガジンによる学会誌目次の配信等を通じて、学会員に対してタイムリーでコンスタントな情報提供を図りました。

<各部門の検討内容と結果>

(1) 会誌部門

会誌アンケート、代議員モニター、支部長会議、研究委員会などからの意見や要望を踏まえて、学会誌の品質の維持と学会員からのニーズに応えられる会誌作りに努めました。具体的には、特集、技術解説、研究動向、話題、講座等を魅力ある内容とするとともに、記事のバランスにも配慮しました。今期（2024 年 5 月号～2025 年 3 月号）は、特集 29 編、技術解説や話題記事 14 編、それ以外にも多数のシリーズ企画を掲載し、タイムリーな情報を学会員に提供しました。学会内の様々な委員会やイベントと会誌の相乗効果によって、学会活性化と学会員の満足度向上に資するよう、昨年度に引き続いて委員会やイベントと会誌の連動企画を検討しました。年次大会、冬季大会との連動記事については、2024 年 7 月号に「生成 AI の最新動向」と「画像生成 AI をめぐる法的・倫理的課題」の 2 つの特集を掲載しました。また、専門外の読者に対して関連分野における技術を系統的に紹介することを目的として、2024 年 3 月号から引き続き、連載講座「幸福長寿社会を実現する映像情報技術」を掲載しました。2025 年 3 月号からは新連載講座「映像情報×認知科学」を開始しました。アクションプランに掲げた学会誌の電子化については、学会員の意向を把握するための事前アンケートを実施しました。その後、タスクフォース委員会を設置し、アンケート結果を元に、予算を削減しつつ会員満足度の高い電子化サービスについて検討を開始しました。

(2) 海外文献部門

海外文献部門委員会は、今年度も文献調査等の審議はメール審議で行い、学会誌に掲載しました。

(3) ニュース部門

ニュース部門委員会は、著作権上の懸念が発生したことにより活動について大きな見直しを行いました。今後は、展示会の見聞録という企画があるのでこれを拡張することで対応します。具体的には、現在は、放送技術寄りの展示会（InterBEE と NHK 技研公開）の見聞録を企画していますが、昨今の技術動向など鑑みもっと幅広い視点で見聞録企画に値する展示会などをニュース部門委員の方からの情報などで見つけレギュラー企画化する予定です。

また企画委員会には、引き続き海外文献部門・ニュース部門の部門委員長も参加し、会誌部門と海外文献・ニュース両部門の 3 部門間での情報共有を密にし、一般読者にもわかりやすく魅力ある会誌の編集に努めました。

④ 論文委員会（担当：藤崎編集担当理事）

2024 年度の論文委員会の構成は、安藤慎吾委員長（和文論文編集委員会委員長，MTA 編集委員会委員長兼務），和文論文編集委員会副委員長の吉田大我委員と平野芳邦委員，MTA 編集委員会副委員長の太田裕司委員と海野恭平委員，編集担当理事（1年目）の藤崎好英委員，編集長の亀山渉アドバイザの 7名でした。幹事には，太田裕司委員が指名されました。

6月の新体制後の委員会では，運営方針や編集体制，投稿数・特集提案状況などの確認を行うとともに，和文・MTA公開論文の学術論文データベースのエブスコホストへの収録について対象期間を2022年1月号以降とすること，査読システムの判定結果に「条件付き採録」を追加すること，和文論文と英語論文の相互翻訳を検討しました。また，不足分野への編集委員の追加選出や学会誌ハイライト欄への対応についても検討しました。

10月の委員会では，太田裕司委員の退任に伴う後任幹事として吉田大我委員が指名されました。投稿・掲載状況，特集号の企画提案状況の確認を行うとともに，和文論文誌の投稿数向上に向けた施策を議論するとともに，学会誌研究ハイライト掲載論文の翻訳版公開とホームページリンクの掲載方法，KIBME-ITE Joint Special Sessionの特集企画について検討を行いました。また，J-Stageと連携した和文誌・MTAのオープンアクセス化やMTA掲載料の値上げについても検討しました。

2月の委員会では，冒頭，委員の交代（海野恭平様から松崎康平様）について紹介された後，投稿・掲載状況，特集号の企画提案状況の確認を行うとともに，論文賞候補として，和文論文・MTA論文からそれぞれ 3 編，合わせて 6 編の論文を選定し，その推薦文を確認のうえ選奨委員会へ提出しました。また，短期査読フィールド論文特集「2024年冬季大会講演を中心に」を11月号企画として進めること，和文論文誌の特集成立編数をMTAと同様の3編とすること，インターネット上の情報源を引用時の表記方法について検討しました。10月委員会に引き続き，和文誌・MTAのオープンアクセス化とMTA掲載料の値上げについて継続検討を行いました。

(1) 和文論文関係

・2024 年度（2024 年 5 月号～2025 年 3 月号の計 6 号）は，28 編の論文等を掲載しました（論文 11 編，招待論文 4 編，動画付き招待論文 1 編，フィールド論文 1 編，招待フィールド論文 4 編，研究速報 2 編，特集巻頭言 4 編，招待これすぽんでんす 1 編）。（参考：2023 年度の掲載数は論文 8 編（招待論文 2 編含む），フィールド論文 10 編（招待フィールド論文 4 編含む），研究速報 1 編，動画付き研究速報 1 編，特集巻頭言 2 編）

(2) MTA 関係

・2024 年度（2024 年 7 月号～2025 年 4 月号の計 4 号）は，37 編の論文等を掲載しました（論文 34 編，特集巻頭言 3 編）。（参考：2023 年度の掲載数は 30 編（論文 24 編，招待論文 3 編，特集巻頭言 3 編）

⑤ 技術委員会（担当：加藤調査担当理事）

本年度は，相澤清晴委員長の指導の下，技術委員会を 3 回開催し，研究委員会の円滑な運営を支えるための現状と将来方針について審議しました。

本年度も各研究委員会の活動状況と今後の予定を確認し，調査研究費の支出状況を確認することで，委員会間の情報共有をさらに進めました。

研究会活動の現地開催とハイブリッド開催が増えており，技術委員会ではその円滑化を目指してノウハウの共有を進めてきました。

特にハイブリッド開催の実施事例を共有し，成功事例から学ぶことで，各研究委員会がより効果的に活動できるようサポートしています。

調査研究費の配分については，本年度より，研究会の発表件数（研究委員会提案の会誌特集，特集論文の掲載数，大会企画の講演数を含む）を実績連動予算の評価項目に加えることで，より公平で透明性のある配分を実現しています。

2025 年度の予算配分に関しては，これらの新しい評価基準を反映した案が承認されました。オンライン技術報告は，年間に 38 分冊を発行しましたが，購読者数が伸び悩んでいます。そのため，各研究委員会メンバーに対して「研究会年間登録」の周知を行い，所属機関の図書館や資料室への「技報アーカイブ」勧誘を強化するよう依頼を行いました。

第 27 回「優秀研究発表賞」では，各研究委員会の選考結果を確認し，受賞者 14 名を決定しま

した。授賞式は12月の冬季大会技術交流会で行われ、受賞者の情報を会誌2025年3月号に掲載いたしました。

研究会聴講参加費および年間登録費については、関連他学会と比較し価格の見直しを決定し、次年度から改訂することを確認いたしました。

⑥ 選奨委員会（担当：樋口総務担当理事）

学会選奨規程に基づき、丹羽高柳賞については功績賞推薦なし、業績賞1件、論文賞3編を、鈴木記念奨励賞については5名を選考しました。技術振興賞については、進歩開発賞（現場運用部門）3件、進歩開発賞（研究開発部門）2件、コンテンツ技術賞2件、映像情報メディア未来賞1件を選定しました。

選考はコロナ禍以降オンライン形式で実施してきましたが、2023年度に続き、2024年度もハイブリッド形式で行いました。選考部会メンバーには現地参加を依頼し、プレゼンターとの対面での質疑応答を促す一方、遠隔地からのオンライン参加も可能としました。

近年の応募数減少に対応するため、周知の強化を図りました。従来の学会ホームページや会誌による案内、維持会員社への応募依頼状の送付、メールマガジンによる周知に加え、民放連加盟局へ推薦依頼を送付しました。さらに、委員会メンバーにも関連各所への応募を促しました。その結果、一部の部門では応募件数が増加し、一定の効果が得られました。

⑦ フェロー選定委員会（担当：藤井総務担当理事）

フェロー選定委員会では、前年度からの申継事項はなく、フェロー選出規定にのっとり議事を進めました。フェロー選出規定13条第1項「単年度に選出されるフェロー会員の数については、正会員および名誉会員の合計数の0.2%程度を上限とする。」から、今年度の上限数は3.9名のところ、推薦のあった候補者は2名でした。推薦書の内容を確認のうえ、候補者2名それぞれにレフリースリーフを選出して評価いただき、フェローを2名選出しました。

第1回、第2回フェロー選定委員会ともオンラインで実施しました。2025年度への申継事項はありませんが、レフリースリーフ評価シートの貢献カテゴリーの記載数にばらつきが見られたため、レフリースリーの記載のしやすさも考慮して主なカテゴリーの1項目にしてよいのではないかという意見をいただきました。

⑧ テストチャート委員会（担当：加藤調査担当理事）

テストチャート頒布事業は学会の財政面から非常に重要な事業です。

ハイビジョンシリーズ、4K/8K 超高精細広色域標準静止画像、4K/8K 超高精細広色域標準動画像A、B、C(HDR 版)各シリーズ共に引き合いがありました。当初予算で見込んだ額の85%に留まりました。4K/8K ハイフレームレート版標準動画像Dシリーズについては昨今のXR、メタバースの隆盛を受けてハイフレームレート映像へのニーズが高まってきており、2024年度はARIB評価シーケンス作業班が開催したハイフレームレート勉強会に参加し評価を行いました。引き続き技術仕様、ニーズについて検討することとしました。

22.2 マルチチャンネル標準音源Bシリーズの制作については、オブジェクトベース音源の放送規格化に伴い ARIB 音声品質評価法作業班と共同で行った仕様検討結果に基づき標準音源の制作を完了しました。それに伴い ARIB との間で「標準音源制作に関する覚書」を締結しました。

⑨ 国際会議検討委員会（担当：秋田企画担当理事）

国際会議の企画運営や国際間相互協力等に関する国内外の関連学協会との関係構築と維持を行うことを通じて、本会の活性化や会員サービス向上につとめました。

海外学会との連携では、韓国放送メディア学会(KIBME: The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers)との協力体制を継続しており、NHK 技研公開時に KIBME/ITE 間の役員レベルのミーティングを行い、今後の両学会の連携方法、協力体制について意見交換を実施しました。具体的には、本会年次大会にて「KIBME/ITE JOINT SESSION」を企画し、KIBME/ITE からそれぞれ2件の講演を実施しました。また講演後開催した KIBME/ITE 間のミーティングにおいて、KIBME/ITE 共同での論文特集を企画することで合意し、弊会論文委員会に提案して了承を得ました。本論文特集は MTA の 2025 年 10 月号掲載に向けて準備を進めています。今後とも双方の連携を図る施策については継続的に検討を深めることを合意しており、国際会議連携委員会の所掌として活動を継

続してまいります。

本会がSID(The Society for Information Display)と共催するIDW' 24(International Display Workshop)へ組織委員として参画しました。

なお、ブラジルテレビ技術協会(SET:The Brazilian Society of Television Engineering)との交流は、2019年に双方の会長出席のミーティングを開催して以降途絶えています。

⑩ 映像情報メディア発展事業資金運営委員会（担当：坂東会計担当理事）

本委員会では、一般国民に対する普及啓発事業や次世代の人材育成事業、会員相互の能力向上事業等を通じて映像情報メディア技術の発展に資することを目的とし、(1)産業界、学界および一般社会地域と密接した事業、(2)次世代を担う映像メディア技術者の育成事業、(3)会員サービスおよび本会の発展に繋がる事業、(4)その他発展事業資金の目的に相応しい事業にて必要となる資金の運営を進めてきました。2024年度は、下記1件の資金活用を実施しました。

・委員会活動

- 2025年1月16日に関西支部より映像情報メディア発展事業資金利用申請を受領。1月27日に1月29日を締切としたメール審議を実施。反対意見はなく、本申請を承認。3月26日第6回理事会にて援助申請の承認を報告。

・映像情報メディア発展事業資金利用申請／活用内容

- 申請者：関西支部
事業名：映像情報メディア学会関西支部 優秀論文発表賞
事業内容：電気関係学会関西連携若手シンポジウムで、映像情報メディア学会の発展に寄与する論文発表に対して関西支部として優秀論文発表賞を授与する
申請理由：表彰の副賞として授与する楯を含めた費用の補填のため
期待される効果：映像情報メディア学会の発展に寄与する論文の講演発表を表彰することで、当学会に対する理解と活動促進が図れ、且つ学生や社会人の学会加入の促進が期待できる
支出金額：20,100円（楯製作費・包装・送料3名分）
次年度委員会には、上記(1)～(4)事業の支援を引き続き推進いただくことを期待します。

⑪ 長期計画検討委員会（担当：樋口総務担当理事）

正会員・維持会員の漸減傾向や厳しい財政状況といった学会の現状を踏まえ、今後の対応策として会員増・収入増・支出抑制策などの観点から検討が行われました。今後、2018年3月に長期検討委員会が作成した「課題抽出と対処計画に向けた整理」を更新し、優先順位の見直しや中期収支改善といった優先度の高い項目を追加し、具体的なアクションにつなげていく予定です。

2024年度事業報告の附属明細書

1. 会員数の異動（2025年3月31日現在）

注：同日付退会者を「退会」に含む，同日付資格喪失者を「資格喪失」に含む

	名誉会員	正会員	学生会員 (内アカデミック学生)	維持会員	特殊会員	準会員	合計
2024年4月始	43	1931	266 (206)	161 (819口)	30	36	2467
入会(変更) 退会(死亡・変更) 復会 資格喪失	-2	77 -182 1 -15	91(28) -79(-15) 1	2(2口) -10(-10口)	-2	19 -17	189 -290 2 -16
増減	-2	-119	13(13)	-8(-8口)	-2	2	-115
2025年3月末	41	1812	279 (219)	153 (811口)	28	38	2351

*アカデミックパートナー登録研究室：24研究室

2. 機関誌，論文集，英語論文誌，研究会資料などの刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

編集委員会（編集長 亀山 渉）において、「映像情報メディア学会誌」第78巻第3号通巻854号～第78巻第2号通巻859号の計6号を，隔月（奇数月）1日に，年間計15,420部発行し，会員に配布しました。

今期の編集関係会議は，定例編集委員会として，企画委員会を7回，年次企画委員会を3回（新型コロナウイルス感染予防を考慮し，リモートで5回，ハイブリッドで2回）開催いたしました。

海外文献部門委員会は，これまでどおり，文献調査を行いました。

ニュース部門委員会は，これまで行ってきたニュース記事要約紹介の学会誌への掲載が，著作権的に問題となる可能性があることから，現在の掲載方法は中止し，別な活動に移行できないかを検討しました。その結果，これまでの学会誌へのニュース記事要約紹介を止め，展示会の見聞録を執筆する方針といたしました。

また企画委員会には，引き続き海外文献部門・ニュース部門の部門委員長も参加し，会誌部門と海外文献・ニュース両部門の3部門間での情報共有を密にし，一般読者にもわかりやすく魅力ある会誌の編集に努めました。

今期特集は，基本1テーマで企画し（但し良いテーマがあれば2テーマ），ページ数を厳守しながら，タイムリーでホットな情報提供をいたしました。また年次・冬季大会や研究会で発表される最新情報の提供を行うべく，大会の企画セッションなどから企画をピックアップし，特集，特別寄稿，解説記事等で連動企画を検討いたしました。会誌の電子化においては，現状冊子体作成収支，電子化した場合の経費を比較し，赤字の減少が見込めることから，完全電子化を進めることにいたしました。さらに記事内容の理解度を深めるため，図はモノクロ掲載を推奨しつつ，作成費を考慮しながら，必要に応じ図のカラー掲載をいたしました。

①J-STAGEを介したオンラインジャーナルについて

会誌冊子体部分も，継続して発行後2ヵ年を経て，全文公開を行います。

②「ベストアーティクル賞」および「ベスト動画コンテンツ優秀賞」の選定について

会誌1月号～11月号に掲載の記事を対象に，会誌アンケート結果の得票数を基に割り出した評点により，両賞ともに一次選考を行いました。選考により，ベストアーティクル賞は，各号ごとに上位3件

程度（同得点の場合は考慮）の18件を、ベスト動画コンテンツ優秀賞は、4件（例年上位3件を二次選考対象としているが、今回は公開コンテンツ全4件）を二次選考対象とし、企画委員会メンバーにより二次投票を行いました。その結果、ベストアーティクル賞は次の3件、ベスト動画コンテンツ優秀賞は次の1件を選定いたしました。受賞者にはオリジナル図書カードを進呈するとともに、ホームページ上で公表しました。

〔ベストアーティクル賞〕

- ・7月号＜特集A＞「生成AIの最新動向」
「1. 大規模言語モデル入門」
（NTT 西田光甫氏）
- ・7月号＜特集A＞「生成AIの最新動向」
「4. 生成AIは人に希望を与えられるか」
（NEC 世良卓也氏）
- ・11月号＜特集＞「スマート農業・スマート漁業の最新動向」
「スマート農業③：養蜂支援を目的とした画像処理システム」
（宇都宮大学 長谷川まとか氏）

〔動画コンテンツ優秀賞〕

- ・5月号＜特集＞「イメージセンサを用いた可視光通信：光カメラ通信」
「4. 自律走行ロボットへの可視光通信の応用」
（ソフトバンク(株) 渡辺博文氏、東京農工大学 太田佳里氏）

③海外文献部門委員会

海外文献部門委員会は、文献調査等の審議はメール審議で行い、学会誌で毎号1頁「海外文献集録を」掲載いたしました。また昨年度より国際会議発表原稿も抄訳対象とし、文献調査を行いました。対象論文誌に加え、国際会議発表原稿も抄訳対象とし、文献調査を行いました。

④ニュース部門委員会

ニュース部門委員会は、これまで行ってきたニュース記事要約紹介の学会誌への掲載が、著作権的に問題となる可能性があることから、現在の掲載方法は中止し、別な活動に移行できないかを検討しました。その結果、これまでの学会誌へのニュース記事要約紹介を止め、展示会の見聞録を執筆する方針といたしました。今後は、リストアップした展示会に優先順位の高いものから順に取材に赴き、学会誌への見聞録を執筆いたします。また今年度「NHK技研公開」、「Inter BEE」は、現地取材し、「NHK技研公開 2024 見聞記」は、2024年9月号に、「Inter BEE 2024 見聞記」は、2024年3月号にそれぞれ掲載いたしました。

⑤その他の新しい試み

- (a) 会誌の電子化は、現状冊子体作成収支、電子化した場合の経費を比較し、赤字の減少が見込めることから、完全電子化を進めることとし、会員の意向を把握するため、アンケートを実施（依頼件数1646件、回答数336件）。その結果、8割以上が（336件回答、うち賛成59%、どちらかといえば賛成28%で）電子化に賛成であることから、電子化に向けて検討を開始することといたしました。さらに、「会誌電子化」タスクフォースを設置し、電子化に向けた具体化を開始いたしました。
- (b) ＜講座＞「映像情報×認知科学」の連載を2025年3月号より開始しました。
- (c) 今年度も総務省関連の記事を年1～2件を目途に企画しました。引き続き総務省関連記事の企画を行います。
- (d) 選奨受賞関連記事の企画について
丹羽高柳賞＜功績賞＞、＜業績賞＞の受賞者および本年度フェローに認定された方からの「会員へのメッセージ」を9月号に掲載しました。今後も引き続き行います。
- (e) 大会との連携を目的に、2023年年次大会＜企画セッション6＞「放送局におけるカーボンニュートラルに向けた取り組み」の講演内容を、＜特集＞欄で企画検討を行い、2025年5月号＜特集＞で「放送局におけるCO2削減の取り組み」と題して、企画いたします。
- (f) 「映像情報メディア年報2023シリーズ」について
10の研究委員会により、2023年1月号から連載を開始し、2024年5月に終了いたしました（スポーツ情報処理の研究動向は見送り）。また「映像情報メディア年報2025シリーズ」も連載企画とすることとし、10の研究委員会により、2025年1月号から連載を開始し、2026年7月終了予定。

(g) 学会HPでの全文公開について

アクセス制限なしで＜知っておきたいキーワード＞＜年報＞＜きらり。中のヒト＞＜研究開発ツール＞＜ベンチャービジネス＞の各欄と＜講座＞（シリーズ終稿後）を、学会HPに全文公開いたしました。今後も継続いたします。

(h) 研究委員会、支部との連携強化をはかるため、会誌企画は例年通り各研究委員会および各支部にテーマの提案をお願いしました。今年度は研究委員会題目提案0件、支部題目提案5件を会誌に掲載いたしました。今後も引き続き提案依頼を行います。

⑥2024年5月号～2025年3月号の特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2024. 5	特 集	イメージセンサを用いた可視光通信：光カメラ通信	5	21
2024. 7	特 集 A	生成 AI の最新動向	4	19
	特 集 B	画像生成 AI をめぐる法的・倫理的課題	4	18
2024. 9	特 集	音声合成技術の最前線	3	21
2024. 11	特 集	スマート農業・スマート漁業の最新動向	5	26
2025. 1	特 集	言語情報を視覚化する映像システム	5	29
2025. 3	特 集	イメージセンサ技術の最新動向	3	18

⑦2024年5月号～2025年3月号の講座、てれび・さろん等のシリーズ連載テーマ

月 号	欄 名	連 載 テ ー マ	掲載回数	連載時期
2024. 5, 7, 9, 11 2025. 1	講座	幸福長寿社会を実現する映像情報技術	全 6 回	2024 年 3 月から開始 2025 年 1 月終了
2025. 3	講座	映像情報×認知科学	全 6 回	2025 年 3 月から開始 2026 年 1 月終了予定
2024. 5	てれび・さろん	映像情報メディア年報 2023 シリーズ	全 10 回	2023 年 1 月から開始 2024 年 7 月号終了
2025. 1, 3		映像情報メディア年報 2025 シリーズ	全 10 回	2025 年 1 月から開始 2026 年 7 月号終了予定
2024. 5, 9, 11 2025. 1, 3		知っておきたいキーワード	全 161 回	2006 年 6 月から開始
—		私の研究開発ツール	全 112 回	2007 年 7 月から開始
—		名誉会員からのメッセージ — 次代を担う若者に向けて —	全 30 回	2008 年 8 月から開始
2025. 3		標準化現場ノート	全 44 回	2010 年 4 月から開始
—		メディアウォッチ	全 29 回	2012 年 1 月から開始
2024. 5, 7 2025. 1, 3		きらり。中のヒト	全 20 回	2021 年 5 月から開始
—		異業種での映像情報メディア	全 39 回	2015 年 1 月から開始
2024. 7		私の日本滞在記	全 24 回	2015 年 11 月から開始
2024. 5, 7 2025. 1		思い出の 1 枚	全 41 回	2017 年 1 月から開始
2024. 5, 7, 9, 11 2025. 1, 3		研究ハイライト	全 49 回	2017 年 3 月から開始
—		ベンチャービジネス	全 19 回	2018 年 1 月から開始

⑧2024年5月号～2025年3月号の会誌各欄のページ数

欄 名	頁数	欄 名	頁数	欄 名	頁数
年頭インタビュー	9	話 題；見聞記	22	ベンチャービジネス	0

ふぉーかす	5	講 座	36	メディアウォッチ	0
お祝い文	0	年報シリーズ	18	報 告	37
追悼文	1	名誉会員からのメッセージ	0	ニュース	13
受賞者・役員紹介	15	私の研究開発ツール	0	海外文献収録	6
目 次	18	知っておきたいキーワード	19	学会からのお知らせ	52
特別寄稿	0	標準化現場ノート	4	学会だより	13
講 演	0	きらり。中のヒト	11	総目次	6
特集本文	152	異業種での映像情報メディア	0	論文目次	6
技術解説	18	私の日本滞在記	3	英語論文目次	4
研究動向	0	思い出の1枚	4	合 計	539
話 題	14	研究ハイライト	53		

注) 他に、「新刊図書」3冊、「広告」14頁、「カタログ同封サービス」2件、「技術資料」0頁、「メールニュース広告」配信0回、「バナー広告」0件。

(2) 論文関係

論文委員会(委員長 安藤 慎吾)において、「和文論文誌」第78巻第3号～第79巻第2号の計6号と、「ITE Transactions on Media Technology and Applications」を第12巻第3,4号、第13巻第1,2号の計4号を、下記のとおりJ-STAGEを介したオンラインジャーナルとして公開しました。今期の論文委員会は年3回の委員会開催に加えて、e-mail・Slack等を活用して効率的な運営を致しました。

①和文論文⇄英語論文相互翻訳サービスの開始

論文誌の活性化・サーキュレーション向上のための施策として和文論文⇄英語論文の翻訳版を公開することとし、7月号(ITEJ・MTA)でトライアル公開を実施の上、9月号(ITEJから本公開しました。年次・冬季大会、IDWでのポスター掲示・チラシ配布をはじめ2025年1月号より学会誌研究ハイライト欄の掲載論文も翻訳対象に含め、誌面に翻訳版ホームページへのリンクQRコードを掲載するなどの周知を行いました。

②技術委員会での論文特集提案・未選出編集員の選出依頼

7/10・11/6開催の技術委員会にて編集理事の藤崎委員より研究委員会委員長に論文特集提案依頼および、ITEJ・MTA編集委員が未選出の研究会に選出依頼をいただきました。

③オンライン論文検索プラットフォーム「エブスコホスト」への収録

ITEJ・MTAともに収録対象期間を2022年1月号以降として、エブスコと契約を交わしました。

④和文論文誌(ITEJ)投稿数向上施策の検討／和文論文誌の論文特集成立編数の変更

和文論文誌の投稿・掲載数の減少が続いているため、活性化のための施策について検討を行いました。新たな試みとして2025年11月号に「年次・冬季大会講演特集」と「短期査読論文特集」を融合させた「短期査読フィールド論文特集 ～2024年冬季大会講演を中心に～」を企画し、冬季大会座長推薦者への投稿勧誘および2024年年次・冬季大会参加者への周知を行いました。また、和文誌の論文特集成立編数「4編」をMTAと同様に「3編」としました。

⑤KIBME-ITE Joint Special Section (MTA2025年10月号)の企画

MTA2025年10月号にKIBME-ITE Joint Special Sectionを企画しました。ITE・KIBMEから合計で11編(招待論文含め)の投稿がいただけ、現在は査読中です。

⑥和文誌査読システム上での再査読時の条件付き採録の設定

和文誌査読サイトで、軽微ではあるが修正が必須となる箇所がある場合に、繰り返し条件付き採録を出すことができる仕様変更を行います。J-STAGE公開画面の表示設定変更・編集委員マニュアルの修正・論文原稿の表示修正等を進めます。

⑦インターネット上の情報源の引用時の表記方法

掲載形式をメール審議にて決定の上、各種資料に追記します。

⑧2024年度丹羽高柳賞論文賞候補論文の選定

和文誌・MTA編集委員会にて3編ずつ選出された合計6編の候補論文と、その推薦文を確認の上、論文委員会の最終候補論文とすることを決定しました。委員会後に推薦文の確認と修正を行い、選奨委員会へ提出しました。

⑨論文編集功労賞・論文査読功労賞の選定について

和文論文誌(ITEJ)・英語論文誌(MTA)の両論文誌の編集委員担当数・査読編数が15編以上の編集委員・査読者を表彰することとし、今年度は次の方々に表彰状を授与します。表彰状の授与

は、年次大会技術交流会席上で行います。

【論文編集功労賞】

池辺 将之/北海道大学

外山 史/宇都宮大学

小池 崇文/法政大学

【論文査読功労賞】

池辺 将之/北海道大学

小峯 一晃/ NHK

水科 晴樹/徳島大学

筒口 拳/崇城大学

高田 英明/長崎大学

⑩J-STAGE Data 導入／ITEJ・MTA のオープンアクセス化

確認が必要な点（J-STAGE Data に搭載可能なデータ、オープンアクセス化のための CC ライセンス表示の詳細など）について J-STAGE に問い合わせを行います。合わせて、J-STAGE Data 導入に伴う査読フローを事務局で作成の上、現実的に対応可能であるかを含めて検討します。また、電気・情報関連 5 学会をはじめとした論文誌の対応状況および今後の見通しについて事務局から確認を行い、論文委員会で共有します。

⑪MTA 掲載料の値上げ

他誌に比べて低額の料金設定としている MTA の掲載料金の値上げについて、具体的な値上げ額およびその根拠となる資料を事務局にて作成の上、論文員会 Slack にて検討を行っています。

⑫2024 年 5 月号～2025 年 3 月号の論文特集のテーマとそのページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2024. 5	論 文 特 集	映像表現とコンピュータグラフィックス ～映像表現・芸術科学フォーラム 2023 を中心に～	(2) [1] <1>	(17) [19] <10>
2024. 11	論 文 特 集	ディスプレイ ～IDW' 23 を中心に～	(1)	(6)
2025. 1	論 文 特 集	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論文	【3】 [3] 『1』	【15】 [20] 『3』
		短期査読論文	(1)	(7)

() は論文, 【】 は招待フィールド論文, [] は招待論文, <> は動画付き招待論文, 『』 は招待これすぽんでんす

⑬2024 年 5 月号～2025 年 3 月号 オンラインジャーナルのページ数

欄 名	オンラインジャーナルの頁数(編数)
巻 頭 言 (特 集)	4 (4)
招 待 論 文 (特 集)	29 (4)
招待フィールド論文(特集)	18 (4)
動画付き招待論文(特集)	10 (1)
招待これすぽんでんす(特集)	3 (1)
論 文 (一 般) (特 集)	49 (7)
	30 (4)
動画付き論文 (一 般) (特 集)	0 (0)
	0 (0)
フィールド論文 (一 般) (特 集)	6 (1)
	0 (0)
研 究 速 報 (一 般) (特 集)	8 (2)
	0 (0)
動画付き研究速報 (一 般) (特 集)	0 (0)
	0 (0)
これすぽんでんす	0 (0)
合 計	157 (28)

⑭英語論文誌「ITE Transactions on Media Technology and Applications」特集テーマとページ数

月 号	欄 名	テ ー マ	編数	頁数
2024.10	Special Section	IDW '23	7	50
2025. 1	Special Section	Technologies for Post-COVID 3D Media	11	88
		Fast-track Review	3	35

【 】内は Invited Paper

⑮2024年7月号・10月号, 2025年1月号・4月号

英語論文誌「ITE Transactions on on Media Technology and Applications」の ページ数

欄 名	頁数(編数)
Foreword (Special Section)	3 (3)
Invited Paper (Special Section)	0 (0)
Invited Paper (Regular Section)	0 (0)
Paper (Special Section)	173 (21)
Paper (Regular Section)	135 (13)
合 計	311 (37)

(3) 大会・講習会・講演会論文集(予稿集)関係

- ・2024年年次大会講演予稿集(Webダウンロード版およびCD-R版)発行
- ・2024年冬季大会講演予稿集(Webダウンロード版およびCD-R版)発行

(4) 研究会資料(技術報告)関係

巻 号	発行年月日	備 考
V o l . 4 8	2 0 2 4 年	特になし
N o . 1 6	5 月 2 9 日	
N o . 1 7	〃 5 月 3 0 日	〃
N o . 1 8	〃 5 月 3 0 日	〃
N o . 1 9	〃 5 月 3 0 日	〃
N o . 2 0	〃 5 月 3 1 日	〃
N o . 2 1	〃 6 月 1 2 日	〃
N o . 2 2	〃 6 月 2 0 日	〃
N o . 2 3	〃 7 月 1 9 日	〃
N o . 2 4	〃 7 月 1 9 日	〃
N o . 2 5	〃 7 月 2 6 日	〃
N o . 2 6	〃 7 月 2 9 日	〃
N o . 2 7	〃 8 月 1 5 日	〃
N o . 2 8	〃 8 月 2 6 日	〃
N o . 2 9	〃 8 月 2 8 日	〃
N o . 3 0	〃 9 月 1 4 日	〃
N o . 3 1	〃 9 月 1 8 日	〃
N o . 3 2	〃 9 月 2 6 日	〃
N o . 3 3	〃 1 0 月 1 4 日	〃
N o . 3 4	〃 1 0 月 2 2 日	〃
N o . 3 5	〃 1 0 月 2 4 日	〃
N o . 3 6	〃 1 0 月 2 5 日	〃
N o . 3 7	〃 1 0 月 3 1 日	〃
N o . 3 8	〃 1 1 月 1 日	〃
N o . 3 9	〃 1 1 月 8 日	

No. 40	// 11月15日	
No. 41	// 11月28日	
Vol. 49	2025年	
No. 1	1月18日	//
No. 2	// 1月23日	//
No. 3	// 1月24日	//
No. 4	// 2月11日	//
No. 5	// 2月12日	//
No. 6	// 2月13日	//
No. 7	// 2月15日	//
No. 8	// 2月28日	//
No. 9	// 3月 1日	//
No. 10	// 3月 3日	//
No. 11	// 3月 6日	//
No. 12	// 3月11日	//
No. 13	// 3月14日	//

3. 調査・研究活動（定款 第4条（3））

（1）技術委員会

技術委員会（委員長 相澤清晴）は、今期3回（全てハイブリッド）開催し、本会の研究委員会の円滑な運営を図るため、現状と将来方針について審議いたしました。

今期は、昨年に引き続き、「優秀研究発表賞」（受賞者14名）の授賞式を12月の冬季大会技術交流会席上で行い、受賞者の顔写真と概要を会誌2025年3月号に掲載いたしました。

昨期に引き続き、新領域開拓や多数の有料参加による大規模なシンポジウム開催を奨励するための投資的経費を設定し、申請に基づく運用を行いました。今期中に実施した施策はありませんでした。

研究会聴講（発表）参加費および、研究会年間登録費について、関連他学会との比較などから価格見直しを行い、次年度から改訂することを決定いたしました。

（2）研究委員会

次表に記載の10の研究委員会において、それぞれ研究会活動を推進いたしました。

今期は「技術報告」を39分冊、オンラインで出版いたしました。

委 員 会 名	委員長名	開催数	海外	備 考
情報センシング研究委員会	池 辺 将 之	7（2）		
情報ディスプレイ研究委員会	中 村 篤 志	4（1）		
マルチメディアストレージ研究委員会	木 下 延 博	4（4）		
放送技術研究委員会	村 田 英 一	7（6）		
ヒューマンインフォメーション研究委員会	原 澤 賢 充	4（2）		
メディア工学研究委員会	村 松 正 吾	6（4）		
映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会	名 手 久 貴	5（1）		
アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会	上 田 哲 三	2（0）		
立体メディア技術研究委員会	高 木 康 博	6（0）		
スポーツ情報処理研究委員会	角 田 貢	2（2）		

（ ）付数字は地方開催数。

4. 大会の開催（定款 第4条（4））

（1）年次大会

実行委員会（委員長 境田慎一）において、次の通り企画開催いたしました。

会 期 2024年8月28日（水）～30日（金）

会 場 かでる2.7（北海道立道民活動センター）（Zoom 併用）

一般講演 16セッション（93件）

企画講演 5セッション（23件）／フェロー記念講演：3件／招待講演：2件

参加者数 239名（聴講119名，一般発表93名，企画セッション関係者27名）
 技術交流会 80名（授賞式出席者9名含む）

2024年年次大会セッション，講演件数，座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	メディア工学1	5	角田 貢（日体大）	
2	映像表現&CG1 ～ 映像表現・映像生成 ～	6	白石路雄（東邦大）	
3	メディア工学2	6	萩尾勇太（NHK）	
4	映像表現&CG2 ～ MR/AR/VR・バーチャルスタジオ ～	6	名手久貴（東京工芸大）	
5	メディア工学3	6	望月貴裕（NHK）	
6	映像表現&CG3 ～ 実世界センシング・画像と映像 ～	6	森谷友昭（東京電機大）	
7	放送現業	7	小野木晋（読売テレビ）	
8	メディア工学4	6	小池崇文（三菱電機）	
9	センシング1 ～ センシング回路 ～	6	池辺将之（北大）	
10	AI技術の実利用	5	望月貴裕（NHK）	
11	センシング2 ～ イメージング拡張技術 ～	6	池辺将之（北大）	
12	センシング3/ディスプレイ/ストレージ ～ デバイスと応用 ～	6	大谷 愛（立命館大）	
13	ヒューマンインフォメーション	7	堀田裕弘（富山大）	
14	立体メディア技術1	6	掛谷英紀（筑波大）	
15	放送・通信方式	8	塩川茂樹（神奈川工科大）	
16	立体メディア技術2	6	高田英明（長崎大）	
[企画1] KIBME/ITE Joint Session		4	Jeongchang Kim (Korea Maritime and Ocean Univ.) Go Irie (Tokyo Univ. of Science)	
[企画2] MoIP 放送技術		6	金子健二（NHK札幌）	
[企画3] 映像情報メディアの将来を語る		4	樋口晴彦（日立）	
[企画4] 防災・減災のための放送技術		4	岡田 実（奈良先端大）	
[企画5] ウェットプロセスによる光学特性変換デバイスの開発		5	樋口昌芳（物材機構） 田嶋一樹（産総研）	

（2）冬季大会

実行委員会（委員長 松田一朗）において、次のとおり企画開催いたしました。

会 期 2024年12月24日（火）、25日（水）
 会 場 東京理科大学 森戸記念館（Zoom 併用）
 一般講演 13セッション（97件）
 企画講演 5セッション（20件）
 参加者数 248名（聴講126名、一般発表97名、企画セッション関係者25名）
 技術交流会 40名

2024年冬季大会セッション、講演件数、座長一覧

	セッション名	件数	座 長	備 考
1	立体メディア技術、情報ディスプレイ、マルチメディアストレージ	8	加納正規（NHK）	
2	メディア工学1 動作・映像	8	塚谷俊介（NTTドコモ）	
3	ヒューマンインフォメーション1	5	荻谷光晴（神奈川大）	
4	メディア工学2 VR・プロジェクション	9	横井謙太郎 （東芝インフラシステムズ）	
5	ヒューマンインフォメーション2	8	荻谷光晴（神奈川大）	
6	メディア工学3 画像・メディア	8	横井謙太郎 （東芝インフラシステムズ）	
7	放送・通信方式	8	岩崎裕江（東京農工大）	
8	メディア工学4 モデル解析・照明・符号化	8	田良島周平（NTTコミュニケーションズ）	
9	情報センシング	8	林田哲哉（NHK）	
10	メディア工学5 符号化・音声・言語・画像	7	田良島周平（NTTコミュニケーションズ）	
11	映像表現&CG1	6	岡市直人（NHK）	
12	スポーツ情報処理	8	春山知生（NTTドコモ）	
13	映像表現&CG2	6	名手久貴（東京工芸大）	
	[企画1] 生成AI・SNS時代における情報の信頼性確保と出所・来歴認証技術	4	藤井亜里砂（NHK）	
	[企画2] 360度映像の最新動向と今後の展望	4	林田哲哉（NHK） 薄井武順（NHK）	
	[企画3] 生成AIの現状と今後の展望を語る	4	鈴木教洋（日立総合計画研）	
	[企画4] 2023年度各賞受賞企業による記念講演	5	森本 聡（フジテレビ）	
	[企画5] 日・英における地上波デジタル放送をとりまく諸課題	3	森本 聡（フジテレビ）	

5. 国際会議・講演会の開催（定款 第4条（4））

- （1）2024年度年次大会において「KIBME/ITE JOINT SESSION」を開催、KIBME から2件、ITE から2件の講演を実施した。

会 期：2024 年 8 月 28 日

場 所：かでる 2. 7 (北海道立道民支援センター)

講演 1：Overview of Deep Learning-Based Supervised and Self-Supervised Image Denoising
Methods with an Introduction of a New Self-Supervised Method

○Nam Ik Cho(Seoul National University)

講演 2：Personalized Cheering Message Application Using Sound Communication in Concert
Environments ~ Developing an App to Enhance Real-Time Interaction in Live Performance

○Young-gil Kim(University of Seoul)

講演 3：Electrochromic Display Devices with Metallosupramolecular Polymers

○Masayoshi Higuchi(National Institute for Materials Science)

講演 4：Image Registration based Joint Space Narrowing Quantification for Rheumatoid
Arthritis

○Yafei Ou (Tokyo Institute of Technology)

(2) KIBME FALL CONFERENCE 2024 招待講演への対応

会 期：2024 年 11 月 21 日

場 所：光云大学校 80 周年記念館 + オンライン同時開催

講演者：坂東幸浩先生(下関市立大学、会計担当理事)

テーマ：Advances in video coding from standardization to functional extensions

(3) 第 31 回ディスプレイ国際ワークショップ (I DW2024) ※SID との共催

会 期：2024 年 12 月 4 日～6 日

場 所：札幌コンベンションセンター

6. 支部活動報告

(1) 北海道支部

①支部大会 (2024 年 5 月 22 日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催)

②役職者会

第 1 回 (2024 年 5 月 22 日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催)

第 2 回 (2024 年 10 月 30 日 NHK札幌放送局/オンライン同時開催)

第 3 回 (メール審議, 資料配布日 2025 年 4 月 3 日)

③電気・情報関係学会北海道支部連合大会

(2024 年 11 月 2 日～3 日 北海道大学 大学院情報科学研究院)

講演件数：一般講演 158 件

参加者数：302 名

<データサイエンス活用セミナー>

日 時：2024 年 11 月 2 日 9：20-12：40

(講師および演題)

講 師 1：島田 英樹 氏 (トヨタ自動車北海道株式会社)

演 題：「トヨタ自動車北海道のデジタル革新実現に向けたデータ活用」

講師 2：木原 真由美 氏 (合同会社ステップアンダンテ)

演 題：「飲食店 EC サイトの施策決定に生かせる集計値とは？」

講師 3：河村 醇 氏 (日本製鉄株式会社)

演 題：「日本製鉄におけるデータ活用基盤と BI ツール活用例」

講師 4：木村 雄基 氏 (株式会社 N T T ドコモ)

演 題：「お客様起点の事業運営と社会課題解決に挑むドコモのデータ活用」

講師 5：手塚 将玄 氏 (日本鉄鋼所 M & E 株式会社)

演 題：「生産管理でのデータ処理および解析による技術改善の事例」

<特別講演>

日 時：2024 年 11 月 2 日 17：10-18：10

講 師：長谷山 美紀 先生 (北海道大学 副学長・教授)

演 題：「AI を基盤とした異分野融合研究 ～産官学地域連携による取組～」

<北海道総合通信局の紹介>

日 時：2024 年 11 月 2 日 18：10-18：25

講 師：西郷 嘉明 氏 (北海道総合通信局 情報通信部 情報通信連携推進課長)

演 題：「北海道における総務省の施策について」

④北海道支部主催 技術セミナー2025 (2025年3月5日 かでる2・7 「1060会議室」)

講 演 1 「生成 AI の活用による報道業務の負担軽減」

講 師：杉本 歩基 氏 (北海道文化放送株式会社 編成部)

講 演 2 「IP ネットワークを利用した中継伝送の最新動向」

講 師：北島 正司 氏、佐々木 剛 氏

(日本放送協会 メディア総局メディアイノベーションセンター 副部長)

(2) 東北支部

①2024年度通常大会 (2024年5月28日 NHK仙台放送局／オンライン同時開催)

②役職会 (すべてメール審議)

第1回幹事会 (2024年4月5日) *支部役職者途中交代について

第2回幹事会 (2024年5月30日) *サイエンス・デイ 2024 への後援、協賛、表彰創設について

第3回幹事会 (2024年7月3日) *2025年度からの支部共催講演会について

第4回幹事会 (2024年10月21日) *施設・企業見学会の共同開催提案について

第5回幹事会 (2025年1月24日) *第78回東北北海道技術報告会特別講演について

第6回幹事会 (2025年3月14日) *東北地区若手研究者研究発表会での表彰実施について

③施設見学会 (2024年12月19日 東北情報通信懇談会、東北受信環境クリーン協議会と共催)
・東日本放送

④第77回東北地方技術報告会特別講演 (2024年5月10日、NHK仙台放送局と共催)

「Beyond 5G へ向けたフォトリソポリマーの新展開」

小池 康博氏 (慶應義塾大学 教授)

⑤後援団体として参加

1) 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2024 (2024年7月14日、東北大学開催)

2) サイエンス・デイ AWARD 2024 表彰「映像情報メディア学会東北支部賞」(2024年7月22日)

*受賞した仙台青陵中等教育学校科学部には副賞として東北支部役職者提供のノベルティグッズを贈呈

⑥電気関係学会東北支部連合大会 (2024年8月29日～30日、秋田県立大学 本荘キャンパス)
一般講演：発表件数 162 件

⑦2025年東北地区若手研究者研究発表会 (共催)

(2025年3月8日、主催：東北地区若手研究者発表会、東北学院大学工学部開催)

発表件数：口頭発表 64 件、ポスター 86 件

*映像情報メディア学会東北支部優秀発表者表彰 3 件、受賞者には表彰状を送付

(3) 東海・北陸支部

①通常支部大会

(2023年4月25日、Teams オンライン開催)

・2024年度 北陸支部大会 (5月13日、メール周知) *2023年度報告

・2024年度 東海支部大会 (5月14日、オンライン開催) *2023年度報告

・2024年度 東海・北陸支部大会 (5月14日、オンライン開催) *2024年度事業計画、ほか

②役職会

・第1回臨時役職会 (2024年4月2日～4月9日、メール審議) *支部役職者途中交代について

・第2回臨時役職会 (2024年6月27日～7月4日、メール審議) *支部役職者途中交代について

③主催・共催

<主催>

・電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 (2024年8月28日～29日、於：岐阜大学)

講演数：276 件、参加登録：465 名 (講演者 280 名、聴講者 185 名)

・電気・情報関係学会北陸支部連合大会 (2024年9月14日、於：金沢工業大学 (オンライン開催))

講演数：182 件 (一般公演 174 件、招待講演 7 件 v 特別講演 1 件)、参加者数：484 名 (推定)

<共催>

・第33回中部放送技術フォーラム (2024年5月22日～23日 (対面とオンラインのハイブリット開催))

発表数：16 件、実物展示：3 件、聴講者：延べ 400 人以上 (推定)

④助成

・第28回東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会 (2024年8月4日、於：名古屋工業大学)

参加者数：174 名

⑤支部企画

- ・2025 年 1 月 10 日(月) 「コミュファ eSportsStadium」見学・講演会
参加者数：21 名（見学会・講演会参加：17 名，講演会のみオンライン参加：4 名）
- ・2025 年 2 月 19 日(水) オンライン講演会
講演 1：「生成 AI における世界の潮流と、今後の可能性」（NEC 野口氏）
講演 2：「放送メディアの情報アクセシビリティ支援技術の研究」（NHK 金子氏）
参加者数：45 名（聴講者 41 名，講演関係者 4 名）
- ・2025 年 3 月 11 日(火) 「コマツ栗津工場」見学会
参加者数：17 名

⑥優秀学生の表彰（2025 年 3 月）

- ・東海・北陸 7 県の高専・大学 10 校から推薦を受け 10 名に賞状と記念品の発送

（5）関西支部

①「他学会連携」

- 電気学会・電子情報通信学会・映像情報メディア学会三学会関西支部の連携：
関西支部 若手研究発表会（2024 年 13 月 23 日，於：大阪公立大学 I-site なんば）
参加者数：発表者 19 名、聴講者 13 名（役職者含む）

②「専門講習会」（3 回）

- ・専門講習会 1（2024 年 6 月 27 日，Zoom 開催）
テーマ：「映像メディアの社会的課題への向き合い～SDGs 対応，フェイクニュース対策，AI 技術の活用～」
講演件数：4 件，有料受講者：9 名
- ・専門講習会 2（2024 年 10 月 31 日，Zoom 開催）
テーマ：「AI の最新動向と放送現場での活用について」
講演件数：4 件，有料受講者：10 名
- ・専門講習会 3（2025 年 2 月 19 日，Zoom 開催）
テーマ：「通信技術の最新動向と放送メディアでの活用について～様々なネットワーク技術と映像技術やクラウドマスターの発展～」
講演件数：4 件，有料受講者：29 名

③「見学会」（1 回）

- ・見学会 1（2024 年 10 月 23 日 現地開催）
見学先：テレビ大阪新社屋
見学内容：社屋設備概要説明○社内見学 他
参加人員：26 名（参加者 19 名＋幹事 7 名）

④役職会（5 回）

- ・第 1 回役職会（2024 年 4 月 26 日）Zoom 開催
- ・第 2 回役職会（2024 年 6 月 4 日）ハイブリッド開催
- ・第 3 回役職会（2024 年 10 月 18 日）Zoom 開催
- ・臨時役職会（2025 年 1 月 8 日）Zoom 開催
- ・第 4 回役職会（2025 年 3 月 31 日）Zoom 開催

（6）中国支部

- ①2024 年度中国支部 支部大会（2024 年 4 月 17 日，Teams オンライン会議）
- ②2024 年度(第 25 回) 電気・情報関連学会中国支部連合大会第 1 回大会委員会
（2024 年 6 月 7 日，Zoom オンライン会議）
- ③2024 年度(第 75 回) 電気・情報関連学会中国支部連合大会第 2 回大会委員会
（2024 年 7 月 5 日，Zoom オンライン会議）
- ④映像情報メディア学会 2024 年年次大会 ※本部主催
（2024 年 8 月 28 日～30 日，会場：かでの 2.7：（北海道立道民活動センター））
- ⑤映像情報メディア学会 支部長会議
（2024 年 8 月 29 日，会場：かでの 2.7：（北海道立道民活動センター））
- ⑥2024 年度(第 75 回) 電気・情報関連学会中国支部連合大会 プログラム編成委員会
（2024 年 9 月 10 日，Zoom オンライン会議）

- ⑦2024 年度(第 74 回)電気・情報関連学会中国支部連合大会
(2024 年 10 月 26 日, Zoom オンライン開催 (福山大学))
部門数: 27, セッション数: 37, 講演数: 188 件
- ⑧2024 年度中国支部 役員・運営委員会 (2024 年 12 月 12 日, Teams オンライン会議)
- ⑨2024 年度(第 75 回)電気・情報関連学会中国支部連合大会第 3 回大会委員会
(2025 年 2 月 13 日, Zoom オンライン会議)
- ⑩2024 年度電気・情報関連学科優秀卒業生表彰 (3 月下旬実施 57 校 89 名)
- ⑪2025 年度中国支部 支部役職者選挙 (2023 年 2 月 22 日～3 月 22 日 Web 投票)
- (7) 四国支部
- ①四国支部通常支部大会 (2024 年 6 月 5 日, リジェール松山)
- ②四国支部役職会
第 1 回役職会 (2024 年 6 月 5 日, リジェール松山)
第 2 回役職会 (2024 年 6 月 19 日～7 月 10 日, メール審議) 学会誌記事題目・企画提案について
第 3 回役職会 (2025 年 1 月 16 日～1 月 31 日, メール審議) 次年度役職者選出について
- ③電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会 (2024 年 9 月 21 日, 徳島大学常三島キャンパス)
参加者数: 263 名 発表者 聴講者 座長等全て含む実績
第 1 回実行委員会 (2024 年 5 月 22 日, オンライン)
第 2 回実行委員会 (2024 年 8 月 30 日～9 月 6 日, メール審議)
臨時実行委員会 (2024 年 9 月 30 日～10 月 7 日, メール審議)
第 3 回実行委員会 (2024 年 12 月 20 日, オンライン)
- ④四国コンテンツ映像フェスタ 2024 (協賛 審査員/副賞提供)
応募作品事前審査 (2024 年 12 月 11 日～12 月 25 日)
審査会・表彰式 (2025 年 2 月 8 日, 高知県高知市オーテピア)
- (8) 九州支部
- ①支部通常大会 (2024 年 5 月 21 日, Teams オンライン会議)
- ②2024 年度電気・情報関係学会九州支部連合大会
(2024 年 9 月 26 日～27 日, 鹿児島大学)
講演件数: 一般講演 363 件 (2023 年度 383 件)
参加者数: 617 名 (2023 年度 596 名)
- ③放送技術研究会 (本部と共催)
(2025 年 1 月 30 日～31 日, ハイブリッド開催 (熊本大学 黒髪南地区))
学生および若手発表: 17 件
特別講演
講 師: 野口卓朗(有明高専)
演 題: 「ぬりえとメタバースゲームで学ぶ半導体・集積回路設計～ 有明高専発・サーキットデザイン教育～」
- ④役職会
第 1 回役職会 (2024 年 5 月 Teams オンライン)
第 2 回役職会 (2024 年 9 月 メール審議)

7. 支部別会員数 (2025 年 3 月 31 日現在)

支 部 名	正 会 員	学 生 会 員	合 計	維 持 会 員
北海道支部	37	3	40	5 社 (15 口)
東北支部	61	0	61	16 社 (32 口)
東海・北陸支部	151	3	154	18 社 (40 口)
関西支部	240	12	252	10 社 (87 口)
中国支部	59	1	60	14 社 (24 口)
四国支部	32	0	32	9 社 (12 口)
九州支部	62	1	63	15 社 (29 口)
支部合計	642	20	662	87 社 (239 口)

注: 正会員には名誉会員を含める

注：学生会員にはアカデミックパートナー学生を含まない

8. 図書の企画・刊行（定款 第4条（2）項）

編集委員会（編集長 亀山 渉）において、会誌連載講座、会誌連載シリーズなどの単行本化を検討しました。今年度も、体系的（冊子）にはせず、このままの形態で学会HPにて公開することにしました。

9. ITEテストチャートの作成・頒布（定款 第4条（2））

ITEテストチャート委員会（委員長：日下部裕一）を中心に以下の事業を展開しました。

- （1）超高精細・広色域標準動画像小委員会（主査：松田一朗）では、新たな 4K/8K 標準動画像の仕様を検討するため ARIB 評価シーケンス作業班（主任：篠田成彦）が開催した HFR（ハイフレームレート）勉強会に参加しました。60 フレームでは認識できない人の動きが 120 フレームで認識できるなどの効果があるが、動きが速い映像では 120 フレームでも物足りないとの評価となりました。今後、HFR 版標準動画像の技術仕様、ニーズを検討していくこととしました。
- （2）3次元マルチチャネル音響標準音源 B シリーズの制作を行うため、3次元マルチチャネル音響標準音源小委員会（主査：中山靖茂）と ARIB 音声品質評価法作業班（主任：大出訓史）と共同で 5 回の会合を行い、音源仕様の検討を行い、標準音源の収録を完了しました。その後、解説書の作成を開始しました。
- （3）透過型/反射型ハイビジョンテストチャートなどのハイビジョンシリーズおよび超高精細・広色域標準静止画像、超高精細・広色域標準動画像 A シリーズ/B シリーズについても引き合いが続いています。

10. 丹羽高柳賞、技術振興賞、鈴木記念奨励賞、映像情報メディア未来賞の選考と贈呈（定款 第4条（5））

〔各賞受賞者氏名／敬称略〕

＜丹羽高柳賞＞

（1）業績賞

- ①受賞者：浜本隆之（東京理科大学）、亀田裕介（上智大学）、前田慶博（芝浦工業大学）
業 績：時空間情報を効率的に活用する画像入力技術の開発

（2）論文賞

- ①受賞者：Kei Suzuki, Chihiro Tsutake, Keita Takahashi, Toshiaki Fujii (Nagoya University)
題 目：Compressing Sign Information in DCT-based Image Coding via Deep Sign Retrieval
- ②受賞者：吉村一真・橋本直己（電気通信大学）
題 目：プロジェクションマッピングにおける動き予測を用いた変形する非剛体への実時間光学的補正
- ③受賞者：Takumu Ohata, Takahiro Ishinabe, Masakazu Nakatani, Hideo Fujikake (Tohoku University)
題 目：Fabrication of High-Quality Adjustable Liquid-Crystal Lens Using Liquid-Crystalline Polymer

＜鈴木記念奨励賞＞

- ①受賞者：水野辰彦（東京理科大学）
題 目：水の吸光特性を考慮した深層展開による水中画像鮮明化（年次 12A-2）
- ②受賞者：大久保翔太（KDDI 総合研究所）
題 目：音源放射特性を反映した 3 次元領域の音波伝播シミュレーション（冬季 11A-3）
- ③受賞者：界 瑛宏（NHK）
題 目：主観的な良さの予測に基づく最適撮影位置推定技術（冬季 13B-8）
- ④受賞者：中塚智尋（KDDI 総合研究所）
題 目：3D Gaussian Splatting モデルのサンプリングと位置合わせ（冬季 21B-1）
- ⑤受賞者：今村弘毅（NHK）
題 目：フレキシブル TFT アクティブピクセルセンサの開発（冬季 21C-3）

＜技術振興賞＞

（1）進歩開発賞（現場運用部門）

- ①受賞者：日本テレビ AI 社内開発チーム
鈴鹿聖之介・鳥谷周太郎（日本テレビ）
題 目：特殊カメラを用いた画像認識技術のスポーツ CG への応用
～ゴルフ打球軌跡リアルタイム描画システムの開発と運用～
- ②受賞者：Live Multi Studio 開発チーム

藤本 剛・原 拓 (TBS テレビ), 馬詰真実 (WOWOW)

題 目: 映像伝送ソフトウェア「Live Multi Studio」の開発

③受賞者: 柴山武英・岩下功志 (毎日放送), 加藤大季 (国際電気)

題 目: 同一チャンネルで全二重伝送を可能にする FPU 高度化

(2) 進歩開発賞 (研究開発部門)

①受賞者: コンテンツレイヤリングシステム開発グループ (NHK)

題 目: コンテンツレイヤリングに対応した VVC マルチレイヤエンコーダの開発

②受賞者: Digital Twin Analyzer 技術開発チーム

湯本麻子・藤田卓志・金武 純 (富士通)

題 目: 一般車載機映像から交通シーンを高精度に再現して, 持続可能な社会を実現するデジタルツイン映像解析システムの開発と実用化

(3) コンテンツ技術賞

①受賞者: 『変顔スパイ』技術開発チーム

三浦祐樹・御子貝真一・海野修哉 (日本テレビ)

コンテンツ名: 顔認証 AI を活用した新番組『変顔スパイ』の制作

②受賞者: 近藤剛史・井原 梓・宮澤真子 (テレビ東京)

コンテンツ名: 次世代伝送回線を活用した新たなバーチャルプロダクション演出による音楽番組での取り組み

③受賞者: コンテンツ開発担当チーム

戸部雄輝・岸 楓馬 (日本テレビ)

コンテンツ名: 3D スキャンワークフローの簡易化とその活用

<映像情報メディア未来賞>

①受賞者: 原澤賢充・宮下山斗・小峯一晃 (NHK)

題 目: 理想的なヘッドマウントディスプレイの要求仕様の解明

1 1. 名誉会員の推薦 (定款 第4条 (8))

本年度, 名誉会員候補者の推薦がなかったため, 第 71 回定時社員総会への名誉会員推挙は行わないことといたしました。

1 2. フェロー認定証の贈呈 (定款 第4条 (5))

フェロー選定委員会 (委員長 松田一朗) において, 慎重に検討しました結果, 次の 2 名の方にフェローの称号を授与することといたしました。

<フェロー認定者/五十音順>

高柳 功 (ブリルニクスジャパン), 馬場口登 (福井工業大学/大阪大学)

1 3. 社会貢献活動 (定款 第4条 (7))

1) 2023 年度各賞受賞企業による記念講演 (冬季大会併催)

期日: 2024 年 12 月 27 日 (水)

会場: 法政大学 市ヶ谷キャンパス

(1) <技術振興賞>進歩開発賞 (現場運用部門) 受賞

『バーチャルマスターオペレーターの開発』

バーチャルマスターオペレーターの開発チーム

高橋康二 (テレビ北海道)

(2) <技術振興賞>進歩開発賞 (研究開発部門) 受賞

『リアルタイム点群圧縮伝送システムの開発』

リアルタイム点群圧縮伝送システムの開発グループ

木谷佳隆・海野恭平・辻 智弘 (KDDI 総合研究所)

(3) <技術振興賞>進歩開発賞 (研究開発部門) 受賞

『医師の診断を支援する 3 次元類似症例画像検索技術の開発と新型コロナウイルス診断への実応用』

宮崎信浩・武部浩明・森脇康貴 (富士通)

(4) <技術振興賞>コンテンツ技術賞受賞

『ビデオペンシステムの開発と機能拡充』

ビデオペン開発チーム

岸 楓馬・三浦祐樹・篠田貴之（日本テレビ）

（５）＜映像情報メディア未来賞＞受賞

『大型カラーアニメーション計算機合成ホログラムの実現』

小磯諒太・野中敬介（ＫＤＤＩ総合研究所），松島恭治（関西大学）

14. 通常総会の開催（定款 第4条（8））

（１）第70回定時社員総会

会期 2024年5月31日

会場 機械振興会館 + オンライン

（２）第71回定時社員総会の準備

2025年5月30日に予定し，その準備を行いました．

15. 2024年度理事会の開催（定款 第4条（8））

本年度の定例理事会はリモートで6回，ハイブリッドで3回開催いたしました．このうち，代表代議員出席3回，支部長出席（代理を含む）8回にて開催し，学会の事業活動などを積極的に推進するための検討を行いました．

以上

2024年度決算報告書

自 2024年 4月 1日

至 2025年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

貸借対照表

2025年 3月31日現在

一般社団法人映像情報メディア学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	56,079,016	54,354,330	1,724,686
現 金	102,261	51,135	51,126
当 座 預 金	12,435,868	13,285,630	-849,762
普 通 預 金	39,625,147	36,844,032	2,781,115
郵 便 振 替 貯 金	3,404,634	3,698,439	-293,805
定 期 預 金	511,106	475,094	36,012
未 収 会 費	1,313,100	1,429,600	-116,500
未 収 金	4,959,341	3,196,615	1,762,726
前 払 金	19,800	0	19,800
棚 卸 資 産	10,731,884	11,156,143	-424,259
貯 蔵 品	174,500	399,500	-225,000
立 替 金	54,923	72,743	-17,820
仮 払 金	402,910	402,310	600
貸 倒 引 当 金	-121,800	-78,500	-43,300
流動資産合計	73,613,674	70,932,741	2,680,933
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定 期 預 金	3,000,000	3,000,000	0
基本財産合計	3,000,000	3,000,000	0
(2) 特定資産			
退 職 給 付 引 当 資 産	643,414	10,768,414	-10,125,000
選 奨 基 金	15,180,338	15,487,743	-307,405
啓 発 普 及 基 金	14,000,000	14,000,000	0
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	26,597,768	0
記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294	35,850,294	0
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	23,871,500	25,871,500	-2,000,000
事 務 局 設 備 特 定 資 産	860,310	860,310	0
鈴 木 記 念 特 定 資 産	1,642,623	1,675,689	-33,066
発 展 事 業 基 金	8,435,802	8,224,880	210,922
特定資産合計	127,082,049	139,336,598	-12,254,549
(3) その他固定資産			
ソ フ ト ウ エ ア	5	5	0
什 器 備 品	1	1	0
一 括 償 却 資 産	89,467	0	89,467
保 証 金	1,714,800	1,714,800	0
その他固定資産合計	1,804,273	1,714,806	89,467
固定資産合計	131,886,322	144,051,404	-12,165,082
資産合計	205,499,996	214,984,145	-9,484,149
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 会 費	10,651,457	765,423	9,886,034
前 受 金	116,400	230,300	-113,900
預 り 金	383,014	175,132	207,882
賞 与 引 当 金	2,372,067	2,286,265	85,802
未 払 法 人 税 等	70,000	70,000	0
未 払 消 費 税 等	544,900	69,500	475,400
流動負債合計	14,137,838	3,596,620	10,541,218
2. 固定負債			
退 職 給 付 引 当 金	14,191,758	17,972,448	-3,780,690
固定負債合計	14,191,758	17,972,448	-3,780,690
負債合計	28,329,596	21,569,068	6,760,528
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	-8,000,000	-8,000,000	0
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	177,170,400	193,415,077	-16,244,677
	-18,000,000	-16,741,000	-1,259,000
正味財産合計	177,170,400	193,415,077	-16,244,677
負債及び正味財産合計	205,499,996	214,984,145	-9,484,149

貸借対照表内訳表

2025年 3月31日現在

一般社団法人映像情報行政学会

科 目	実施事業			
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)	表彰、コンクール
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	-111,556,497	-11,556,746	-1,639,770	-3,641,211
現金	-9,245,517	-8,437,789	-223,136	-280,539
当座預金	88,543,747	10,765,610	65,000	3,188,944
普通預金	-204,957,325	-14,925,333	-1,491,634	-6,556,312
郵便振替貯金	14,102,598	1,040,766	10,000	6,696
定期預金	0	0	0	0
未収会費	0	0	0	0
未前払金	312,525	335,700	0	0
棚卸資産	19,800	0	0	0
貯蔵品	0	0	0	0
立替金	174,500	0	0	0
仮払金	0	10,560	0	0
他会計へ振出	0	0	0	0
貸倒引当金	21,049,881	497,088	0	553,475
流動資産合計	0	0	0	0
2. 固定資産	0	0	0	0
(1) 基本財産	0	0	0	0
定期預金	0	0	0	0
基本財産合計	0	0	0	0
(2) 特定資産	0	0	0	0
退職給付引当資産	0	0	0	0
選奨基金	-15,000,000	0	0	30,180,338
啓発普及基金	0	0	0	0
研究・特別企画基金	0	26,597,768	0	0
記念事業特定資産	0	0	0	0
会誌活性化等特定資産	25,871,500	0	0	-2,000,000
事務局設備特定資産	0	0	0	0
鈴木記念特賞特定金	0	0	0	3,557,373
発展事業基金	0	0	0	0
特定資産合計	10,871,500	26,597,768	0	31,737,711
(3) その他固定資産	0	0	0	0
ソフトウェア備エア	-81,576	0	0	0
什器備品	0	0	0	0
一括償却資産	0	0	0	0
保証金	0	0	0	0
その他固定資産合計	-81,576	0	0	0
固定資産合計	10,789,924	26,597,768	0	31,737,711
資産合計	-79,209,867	15,884,370	-1,639,770	28,649,975
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	221,242	158,188	0	0
前受会費	0	0	0	0
預り金	630	202,046	0	0
賞与引当金	167,460	24,016	0	42,029
未払法人税等	0	0	0	0
他会計より繰入	173,583,293	67,266,945	1,137	57,323,104
未払消費税等	0	0	0	0
流動負債合計	173,972,625	67,651,195	1,137	57,365,133
2. 固定負債				
退職給付引当金	-1,508,478	958,406	0	1,095,038
固定負債合計	-1,508,478	958,406	0	1,095,038
負債合計	172,464,147	68,609,601	1,137	58,460,171
III 正味財産の部				
1. 指定正味財産				
指定正味財産合計	0	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0	0
2. 一般正味財産	-244,706,295	-51,568,230	-1,640,550	-37,935,273
(うち特定資産への充当額)	0	0	0	0
正味財産合計	-251,674,014	-52,725,231	-1,640,907	-29,810,196
負債及び正味財産合計	-79,209,867	15,884,370	-1,639,770	28,649,975

		その他会計(収)					
共通	小計	技術報告関係	図書関係	テストチャート関係	会誌頒布	会誌50CD-ROM	会誌関係
31,390,792	-97,003,432	19,208,399	587,978	117,562,684	15,936,809	29,952	0
-258,832	-18,445,813	-1,171,515	-3,595	-686,258	3,300	0	0
-33,882,612	68,680,689	28,249,502	609,935	107,140,233	15,840,881	0	0
72,892,621	-155,037,983	-35,085,941	-21,008	11,242,227	0	0	0
-7,360,385	7,799,675	27,216,353	2,646	-133,518	92,628	29,952	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	648,225	1,233,450	0	2,452,910	61,896	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	9,963,599	0	768,285	0
0	174,500	0	0	0	0	0	0
0	10,560	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	22,100,444	17,198,850	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
31,390,792	-74,049,903	37,640,699	587,978	129,979,193	15,998,705	798,237	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	15,180,338	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	26,597,768	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	23,871,500	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-1,914,750	1,642,623	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-1,914,750	67,292,229	0	0	0	0	0	0
0	-81,576	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	-81,576	0	0	0	0	0	0
-1,914,750	67,210,653	0	0	0	0	0	0
29,476,042	-6,839,250	37,640,699	587,978	129,979,193	15,998,705	798,237	0
0	379,430	2,288	0	8,548	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	202,676	0	0	0	0	0	0
0	233,505	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
31,441,853	329,616,332	-618,061	0	23,920	4,411,541	0	592,076
272,450	272,450	0	0	0	0	0	0
31,714,303	330,704,393	-615,773	0	32,468	4,411,541	0	592,076
0	544,966	1,279,002	0	0	0	0	0
0	544,966	1,279,002	0	0	0	0	0
31,714,303	331,249,359	663,229	0	32,468	4,411,541	0	592,076
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-2,238,261	-338,088,609	46,277,020	587,978	111,118,305	11,468,293	-797,755	-592,076
0	0	0	0	0	0	0	0
-2,238,261	-338,088,609	36,977,470	587,978	129,946,725	11,587,164	798,237	-592,076
29,476,042	-6,839,250	37,640,699	587,978	129,979,193	15,998,705	798,237	0

共通	小計	年次大会	冬季大会	講習会関係	SMPTE日本会合	国際講演会	講演会
-45,251,390	108,074,432	16,657,179	11,435,451	713,379	-29,052	261,224	170,306
-186,706	-2,044,774	-1,354,020	227,971	-5,000	0	-950	-290
-39,800,894	112,039,657	10,658,001	10,211,473	120,000	0	490,167	133,000
5,179,456	-18,685,266	-12,421,517	-7,911,062	788,379	-29,052	-227,993	2,596
-10,443,246	16,764,815	19,774,715	8,907,069	-190,000	0	0	35,000
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	3,748,256	151,860	411,000	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	10,731,884	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
1,434,669	18,633,519	11,000	24,457	0	0	0	288,528
4,800	4,800	0	0	0	0	0	0
-93,700	-93,700	0	0	0	0	0	0
-43,905,621	141,099,191	16,820,039	11,870,908	713,379	-29,052	261,224	458,834
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-43,905,621	141,099,191	16,820,039	11,870,908	713,379	-29,052	261,224	458,834
0	10,836	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
609,525	609,525	0	0	0	0	0	0
70,000	70,000	0	0	0	0	0	0
89,763,807	94,173,283	82,073	3,586	0	-998,255	90	263,362
223,409	223,409	0	0	0	0	0	0
90,666,741	95,087,053	82,073	3,586	0	-998,255	90	263,362
3,716,505	4,995,507	0	0	0	0	0	0
3,716,505	4,995,507	0	0	0	0	0	0
94,383,246	100,082,560	82,073	3,586	0	-998,255	90	263,362
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-127,045,134	41,016,631	21,026,160	11,719,466	713,379	979,571	261,134	199,842
0	0	0	0	0	0	0	0
-138,288,867	41,016,631	16,737,966	11,867,322	713,379	969,203	261,134	195,472
-43,905,621	141,099,191	16,820,039	11,870,908	713,379	-29,052	261,224	458,834

その他会計(公)

[illegible]

(単位：円)

		法人会計			内部消去		合 計
共通	小計	法人会計	法人会計(支部)	小計	一般事業	小計	
-8,321,649	10,343,416	20,044,097	14,620,503	34,664,600	0	0	56,079,016
-39,420	-2,952,311	21,447,704	2,097,455	23,545,159	0	0	102,261
-3,380,345	18,232,296	-186,516,774	0	-186,516,774	0	0	12,435,868
5,889,786	-22,671,683	223,497,031	12,523,048	236,020,079	0	0	39,625,147
-10,791,670	17,735,114	-38,894,970	0	-38,894,970	0	0	3,404,634
0	0	511,106	0	511,106	0	0	511,106
0	0	1,313,100	0	1,313,100	0	0	1,313,100
0	562,860	0	0	0	0	0	4,959,341
0	0	0	0	0	0	0	19,800
0	0	0	0	0	0	0	10,731,884
0	0	0	0	0	0	0	174,500
0	0	44,363	0	44,363	0	0	54,923
0	0	402,910	0	402,910	0	0	402,910
2,879,401	3,207,756	288,074,627	0	288,074,627	-332,016,346	-332,016,346	0
0	0	-4,800	0	-4,800	0	0	0
0	0	-28,100	0	-28,100	0	0	-121,800
-5,442,248	14,114,032	309,846,197	14,620,503	324,466,700	-332,016,346	-332,016,346	73,613,674
0	0	3,000,000	0	3,000,000		0	3,000,000
0	0	3,000,000	0	3,000,000	0	0	3,000,000
0	0	643,414	0	643,414	0	0	643,414
0	0	0	0	0	0	0	15,180,338
0	0	14,000,000	0	14,000,000	0	0	14,000,000
0	0	0	0	0	0	0	26,597,768
0	0	35,850,294	0	35,850,294	0	0	35,850,294
0	0	0	0	0	0	0	23,871,500
0	0	860,310	0	860,310	0	0	860,310
0	0	0	0	0	0	0	1,642,623
0	0	8,435,802	0	8,435,802	0	0	8,435,802
0	0	59,789,820	0	59,789,820	0	0	127,082,049
0	0	81,581	0	81,581	0	0	5
0	0	1	0	1	0	0	1
0	0	89,467	0	89,467	0	0	89,467
0	0	1,714,800	0	1,714,800	0	0	1,714,800
0	0	1,885,849	0	1,885,849	0	0	1,804,273
0	0	64,675,669	0	64,675,669	0	0	131,886,322
-5,442,248	14,114,032	374,521,866	14,620,503	389,142,369	-332,016,346	-332,016,346	205,499,996
-145,860	17,904	10,261,191	-17,904	10,243,287	0	0	10,651,457
0	0	116,400	0	116,400	0	0	116,400
0	0	180,338	0	180,338	0	0	383,014
25,725	25,725	1,503,312	0	1,503,312	0	0	2,372,067
0	0	0	0	0	0	0	70,000
55,397,999	54,745,205	-146,522,844	4,370	-146,518,474	-332,016,346	-332,016,346	0
49,041	49,041	0	0	0	0	0	544,900
55,326,905	54,837,875	-134,461,603	-13,534	-134,475,137	-332,016,346	-332,016,346	14,137,838
-228,146	-228,146	8,879,431	0	8,879,431	0	0	14,191,758
-228,146	-228,146	8,879,431	0	8,879,431	0	0	14,191,758
55,098,759	54,609,729	-125,582,172	-13,534	-125,595,706	-332,016,346	-332,016,346	28,329,596
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	-8,000,000	0	-8,000,000	0	0	-8,000,000
-60,541,007	-40,495,697	500,116,038	14,622,037	514,738,075	0	0	177,170,400
0	0	-18,000,000	0	-18,000,000	0	0	-18,000,000
-60,541,007	-40,495,697	500,104,038	14,634,037	514,738,075	0	0	177,170,400
-5,442,248	14,114,032	374,521,866	14,620,503	389,142,369	-332,016,346	-332,016,346	205,499,996

正味財産増減計算書

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人映像情報ﾋﾞﾃﾞｵ学会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	37,778	47,100	-9,322
特定資産運用益	37,778	47,100	-9,322
特定資産運用益	712,778	1,068,500	-355,722
特定資産運用益	712,778	1,068,500	-355,722
受取入金	22,500	24,000	-1,500
受取入金	22,500	24,000	-1,500
正会員会費	42,956,600	44,788,650	-1,832,050
正会員会費	20,926,600	22,283,650	-1,357,050
正会員会費	20,475,000	20,875,000	-400,000
正会員会費	580,000	620,000	-40,000
正会員会費	975,000	1,010,000	-35,000
正会員会費	18,104,063	13,803,318	4,300,745
正会員会費	5,387,855	4,611,090	776,765
正会員会費	709,847	754,995	-45,148
正会員会費	1,863,700	2,082,500	-218,800
正会員会費	1,362,600	1,566,800	-204,200
正会員会費	176,000	300,000	-124,000
正会員会費	2,087,950	1,819,850	268,100
正会員会費	1,562,000	1,650,000	-88,000
正会員会費	0	23,100	-23,100
正会員会費	3,845,111	994,983	2,850,128
正会員会費	1,109,000	0	1,109,000
正会員会費	7,700,097	0	7,700,097
正会員会費	7,700,097	0	7,700,097
正会員会費	231,000	263,000	-32,000
正会員会費	231,000	263,000	-32,000
正会員会費	1,501,853	1,327,376	174,477
正会員会費	6,160	85,300	-79,140
正会員会費	73,230	2,085	71,145
正会員会費	951,447	761,247	190,200
正会員会費	217,136	367,864	-150,728
正会員会費	253,880	110,880	143,000
経常収益計	71,266,669	61,321,944	9,944,725
(2) 経常費用			
事業費	62,406,449	48,089,078	14,317,371
給料遣給当金	21,155,449	19,645,612	1,509,837
派遣給付賃金	809,851	648,464	161,387
退職給付厚生通搬	11,551,941	506,201	11,045,740
退職給付厚生通搬	2,960,479	2,727,190	233,289
退職給付厚生通搬	602,481	346,145	256,336
退職給付厚生通搬	2,490,145	2,349,634	140,511
退職給付厚生通搬	424,259	222,535	201,724
退職給付厚生通搬	1,213,315	889,599	323,716
退職給付厚生通搬	5,663,260	6,100,673	-437,413
退職給付厚生通搬	5,348,172	5,265,639	82,533
退職給付厚生通搬	541,125	560,176	-19,051
退職給付厚生通搬	933,923	736,084	197,839
退職給付厚生通搬	544,900	484,600	60,300
退職給付厚生通搬	622,992	420,239	202,753
退職給付厚生通搬	808,157	1,107,689	-299,532
退職給付厚生通搬	121,600	43,000	78,600
退職給付厚生通搬	69,190	55,000	14,190
退職給付厚生通搬	5,920,857	5,003,204	917,653
退職給付厚生通搬	300,555	823,514	-522,959
退職給付厚生通搬	153,799	153,880	-81
退職給付厚生通搬	169,999	0	169,999
退職給付厚生通搬	34,505,595	20,774,069	13,731,526
退職給付厚生通搬	9,005,328	8,362,630	642,698
退職給付厚生通搬	597,513	577,441	20,072
退職給付厚生通搬	4,917,369	215,476	4,701,893
退職給付厚生通搬	1,204,142	1,109,252	94,890
退職給付厚生通搬	31,033	89,897	-58,864
退職給付厚生通搬	106,564	124,255	-17,691
退職給付厚生通搬	219,624	159,671	59,953
退職給付厚生通搬	1,513,314	1,510,593	2,721
退職給付厚生通搬	313,283	324,308	-11,025

諸 租 会 支 委 雜 W 会 発 補 法 減	税 払 e 員 展 助 人 備	会 議 負 託 b 管 業 金 償	公 担 一 理 資 支 税 却	費 課 費 金 費 費 丁 費 活 出 等 費	146,506	179,239	-32,733
					157,273	205,235	-47,962
					926,911	621,019	305,892
					22,981	0	22,981
					4,809,283	4,757,601	51,682
					116,592	113,736	2,856
					2,008,064	1,902,368	105,696
					574,907	435,912	138,995
					20,078	15,436	4,642
					7,700,097	0	7,700,097
					70,000	70,000	0
					44,733	0	44,733
經常費用計					96,912,044	68,863,147	28,048,897
評価損益等調整前当期經常増減額					-25,645,375	-7,541,203	-18,104,172
評価損益等計					0	0	0
当期經常増減額					-25,645,375	-7,541,203	-18,104,172
2. 經常外増減の部							
(1) 經常外収益							
貸倒引当金戻入					78,500	83,700	-5,200
退職給付金取崩益					10,125,000	0	10,125,000
經常外収益計					10,203,500	83,700	10,119,800
(2) 經常外費用							
貸倒引当金繰入					121,800	78,500	43,300
貸倒引当金繰入					564,200	380,000	184,200
賞与引当金繰入					85,802	-266,800	352,602
雑損失					0	44,275	-44,275
前期繰正損					31,000	31,100	-100
經常外費用計					802,802	267,075	535,727
当期經常外増減額					9,400,698	-183,375	9,584,073
当期一般正味財産増減額					-16,244,677	-7,724,578	-8,520,099
一般正味財産期首残高					193,415,077	201,139,655	-7,724,578
一般正味財産期末残高					177,170,400	193,415,077	-16,244,677
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額					0	0	0
指定正味財産期首残高					0	0	0
指定正味財産期末残高					0	0	0
III 正味財産期末残高					177,170,400	193,415,077	-16,244,677

正味財産増減計算書内訳表

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人映像情報バリエーション学会

科 目	実施事業						技術報告関係	図書関係
	会誌関係事業	研究会関係事業	支部(研究会)	表彰、コンクール	共通	小計		
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
基本財産運用利益	0	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取入金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取入金会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正学研究会会費	0	0	0	0	0	0	0	0
維持特殊会会費	0	0	0	0	0	0	0	0
7かミッドナイト	0	0	0	0	0	0	0	0
事業収入	5,387,855	2,007,950	80,000	0	0	7,475,805	1,562,000	0
会誌関係収入	5,387,855	0	0	0	0	5,387,855	0	0
年会次大会収入	0	0	0	0	0	0	0	0
講習大会収入	0	0	0	0	0	0	0	0
研究報告収入	0	2,007,950	80,000	0	0	2,087,950	0	0
図書関係収入	0	0	0	0	0	0	1,562,000	0
リスト収入	0	0	0	0	0	0	0	0
本部交付金	0	0	0	0	0	0	0	0
連合大会	0	0	0	0	0	0	0	0
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金	0	0	0	0	0	0	0	0
発展事業寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
雑誌収入	704,207	0	0	0	6,600	710,807	252,890	0
バックナンバー収入	4,950	0	0	0	0	4,950	1,210	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収入	697,057	0	0	0	6,600	703,657	0	0
支連合大会繰入金	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	6,092,062	2,007,950	80,000	0	6,600	8,186,612	1,814,890	0
(2) 経常費用								
事業費	21,406,244	4,415,763	96,820	2,760,030	272,450	28,951,307	0	0
給料手当	4,126,639	626,624	0	1,097,278	0	5,850,541	0	0
派遣賃金	305,708	131,224	0	0	0	436,932	0	0
退職給付費用	2,253,353	342,167	0	599,168	0	3,194,688	0	0
福利厚生費	642,332	97,624	0	170,744	0	910,700	0	0
旅費	6,587	25,394	0	0	0	31,981	0	0
通信費	2,103,100	141,153	1,650	23,187	0	2,269,090	0	0
消耗什器備品	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品	522,650	70,011	0	162,300	0	754,961	0	0
印刷製本費	5,336,298	0	0	0	0	5,336,298	0	0
賃借料	668,373	2,159,500	42,950	643,881	0	3,514,704	0	0
支払リース料	233,733	35,505	0	62,128	0	331,366	0	0
諸租税公課	247,046	286,693	0	0	0	533,739	0	0
社会費	92,106	9,250	0	0	272,450	272,450	0	0
支払負担金	0	227,582	30,000	0	0	101,356	0	0
支払助成伝	0	0	0	0	0	257,582	0	0
広報費	0	14,190	0	0	0	14,190	0	0
委託宣託費	4,562,724	149,750	22,220	0	0	4,734,694	0	0
図書費	300,555	0	0	0	0	300,555	0	0
連合大会清算費	5,040	99,096	0	1,344	0	105,480	0	0
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0
派遣賃金	0	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費	0	0	0	0	0	0	0	0
通信費	0	0	0	0	0	0	0	0
消耗品	0	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0
支払リース料	0	0	0	0	0	0	0	0
諸租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0
社会費	0	0	0	0	0	0	0	0
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0
支払助成伝	0	0	0	0	0	0	0	0
広報費	0	14,190	0	0	0	14,190	0	0
委託宣託費	4,562,724	149,750	22,220	0	0	4,734,694	0	0
図書費	300,555	0	0	0	0	300,555	0	0
連合大会清算費	5,040	99,096	0	1,344	0	105,480	0	0
経常費用計	21,406,244	4,415,763	96,820	2,760,030	272,450	28,951,307	0	0
評価損益等調整前当期経常増減額	-15,314,182	-2,407,813	-16,820	-2,760,030	-265,850	-20,764,695	1,814,890	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-15,314,182	-2,407,813	-16,820	-2,760,030	-265,850	-20,764,695	1,814,890	0
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
貸倒引当金戻入	0	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0	0
賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0	0	0
前期修正	0	2,500	0	0	0	2,500	0	0
経常外費用計	0	2,500	0	0	0	2,500	0	0
当期経常外増減額	0	-2,500	0	0	0	-2,500	0	0
当期一般正味財産増減額	-15,314,182	-2,410,313	-16,820	-2,760,030	-265,850	-20,767,195	1,814,890	0
一般正味財産期首残高	-229,392,113	-49,157,917	-1,623,730	-35,175,243	-1,972,411	-317,321,414	44,462,130	587,978
一般正味財産期末残高	-244,706,295	-51,568,230	-1,640,550	-37,935,273	-2,238,261	-338,088,609	46,277,020	587,978
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-244,706,295	-51,568,230	-1,640,550	-37,935,273	-2,238,261	-338,088,609	46,277,020	587,978

[illegible]

その他会計(公)										法人会計	
講演会(支部)	NICT国際交流	連合大会(支部)	講習会(支部)	見学会(支部)	共通(支部)	年次大会(支部)	科学博物館展示	共通	小計	法人会計	法人会計(支部)
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37,778	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37,778	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	712,778	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	712,778	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,500	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,500	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42,956,600	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,926,600	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,475,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	580,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	975,000	0
0	0	1,109,000	176,000	0	0	0	0	0	4,511,300	0	5,612,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,863,700	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,362,600	0	0
0	0	0	176,000	0	0	0	0	0	176,000	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1,109,000	0	0	0	0	0	0	1,109,000	0	5,612,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,700,097	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,700,097	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	231,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	231,000	0
0	0	217,136	0	0	0	0	0	0	225,136	3,029,595	116,647
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71,873	1,357
0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,000	119,000	115,290
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,838,722	0
0	0	217,136	0	0	0	0	0	0	217,136	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1,326,136	176,000	0	0	0	0	0	4,736,436	54,690,348	5,728,647
241,142	0	1,530,233	58,443	110,420	410,665	0	0	13,117,155	17,688,876	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	7,857,358	7,857,358	0	0
0	0	218,000	0	0	0	0	0	0	372,919	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	3,886,745	3,886,745	0	0
8,762	0	0	0	420	0	0	0	701,081	701,081	0	0
0	0	24,534	0	0	6,000	0	0	8,410	569,024	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	182,185	0	0
0	0	308	0	0	115,211	0	0	0	415,791	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	8,978	21,488	0	0
54,600	0	160,000	0	110,000	0	0	0	512,222	1,019,352	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	82,935	82,935	0	0
67,231	0	76,822	44,878	0	0	0	0	0	400,184	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	49,041	49,041	0	0
0	0	48,350	0	0	0	0	0	0	521,636	0	0
110,000	0	408,175	13,400	0	19,000	0	0	0	550,575	0	0
0	0	0	0	0	121,600	0	0	0	121,600	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	55,000	0	0
549	0	420,595	165	0	148,854	0	0	0	680,163	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	3,450	0	0	0	0	0	10,385	31,800	0	0
0	0	169,999	0	0	0	0	0	0	169,999	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37,670,160	5,216,157
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,005,328	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	597,513	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,917,369	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,204,142	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6,893	24,140
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	79,101	27,463
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	215,954	3,670
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,513,314	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	313,283	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	146,506	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	157,072	201
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	855,950	70,961
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,981	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,558,283	2,251,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	116,592	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,008,064	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	574,907	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,612,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,078	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,700,097	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,838,722
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44,733	0
241,142	0	1,530,233	58,443	110,420	410,665	0	0	13,117,155	17,688,876	37,670,160	5,216,157
-241,142	0	-204,097	117,557	-110,420	-410,665	0	0	-13,117,155	-12,952,440	17,020,188	512,490
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-241,142	0	-204,097	117,557	-110,420	-410,665	0	0	-13,117,155	-12,952,440	17,020,188	512,490
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,125,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,160,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28,100	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	564,200	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85,802	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28,500	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	706,602	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,453,398	0
-241,142	0	-204,097	117,557	-110,420	-410,665	0	0	-13,117,155	-12,952,440	26,473,586	512,490
-3,803,579	0	-9,431,271	2,226,331	-926,154	-1,759,143	-103,985	-207,674	-47,423,852	-27,543,257	473,642,452	14,109,547
-4,044,721	0	-9,635,368	2,343,888	-1,036,574	-2,169,808	-103,985	-207,674	-60,541,007	-40,495,697	500,116,038	14,622,037
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
-4,044,721	0	-9,635,368	2,343,888	-1,036,574	-2,169,808	-103,985	-207,674	-60,541,007	-40,495,697	500,116,038	14,622,037

(単位：円)

小計	内部消去		合 計
	一般事業	小計	
37,778	0	0	37,778
37,778	0	0	37,778
712,778	0	0	712,778
712,778	0	0	712,778
22,500	0	0	22,500
22,500	0	0	22,500
42,956,600	0	0	42,956,600
20,926,600	0	0	20,926,600
20,475,000	0	0	20,475,000
580,000	0	0	580,000
975,000	0	0	975,000
5,612,000	-5,612,000	-5,612,000	18,104,063
0	0	0	5,387,855
0	0	0	709,847
0	0	0	1,863,700
0	0	0	1,362,600
0	0	0	176,000
0	0	0	2,087,950
0	0	0	1,562,000
0	0	0	0
0	0	0	3,845,111
5,612,000	-5,612,000	-5,612,000	0
0	0	0	1,109,000
7,700,097	0	0	7,700,097
7,700,097	0	0	7,700,097
231,000	0	0	231,000
231,000	0	0	231,000
3,146,242	-2,838,722	-2,838,722	1,501,853
0	0	0	6,160
73,230	0	0	73,230
234,290	0	0	951,447
2,838,722	-2,838,722	-2,838,722	0
0	0	0	217,136
0	0	0	253,880
60,418,995	-8,450,722	-8,450,722	71,266,669
0	0	0	62,406,449
0	0	0	21,155,449
0	0	0	809,851
0	0	0	11,551,941
0	0	0	2,960,479
0	0	0	602,481
0	0	0	2,490,145
0	0	0	424,259
0	0	0	1,213,315
0	0	0	5,663,260
0	0	0	5,348,172
0	0	0	541,125
0	0	0	933,923
0	0	0	544,900
0	0	0	622,992
0	0	0	808,157
0	0	0	121,600
0	0	0	69,190
0	0	0	5,920,857
0	0	0	300,555
0	0	0	153,799
0	0	0	169,999
42,886,317	-8,450,722	-8,450,722	34,505,595
9,005,328	0	0	9,005,328
597,513	0	0	597,513
4,917,369	0	0	4,917,369
1,204,142	0	0	1,204,142
31,033	0	0	31,033
106,564	0	0	106,564
219,624	0	0	219,624
1,513,314	0	0	1,513,314
313,283	0	0	313,283
146,506	0	0	146,506
157,273	0	0	157,273
926,911	0	0	926,911
22,981	0	0	22,981
4,809,283	0	0	4,809,283
116,592	0	0	116,592
2,008,064	0	0	2,008,064
574,907	0	0	574,907
5,612,000	-5,612,000	-5,612,000	0
20,078	0	0	20,078
7,700,097	0	0	7,700,097
2,838,722	-2,838,722	-2,838,722	0
0	0	0	70,000
44,733	0	0	44,733
42,886,317	-8,450,722	-8,450,722	96,912,044
17,532,678	0	0	-25,645,375
0	0	0	0
17,532,678	0	0	-25,645,375
35,000	0	0	78,500
10,125,000	0	0	10,125,000
10,160,000	0	0	10,203,500
28,100	0	0	121,800
564,200	0	0	564,200
85,802	0	0	85,802
28,500	0	0	31,000
706,602	0	0	802,802
9,453,398	0	0	9,400,698
26,986,076	0	0	-16,244,677
487,751,999	0	0	193,415,077
514,738,075	0	0	177,170,400
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
514,738,075	0	0	177,170,400

財産目録

2025年 3月31日現在

一般社団法人映像情報マイア学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金	手元保管	運転資金として	102,261
	預金	当座預金		12,435,868
		みずほ新橋		6,523,572
		みずほ青山		5,912,296
		普通預金		39,625,147
		みずほ新橋①		9,315,145
		みずほ新橋②		-2,342,078
		みずほ支部		240,377
		三井住友銀行		1,522,725
		三菱UFJ信託		5,859,652
		住友信託銀行		1,895,925
		北海道支部		436,052
		東北支部		418,845
		関西支部		280,607
		東海支部		324,789
		中国支部		323,385
		九州支部		290,350
		四国支部		314,722
		大和証券		20,744,651
		郵便振替貯金		3,404,634
		郵便振替貯金①		3,076,553
		郵便貯金・普通		328,081
		定期預金		511,106
		みずほ新橋		511,106
	未収会費			1,313,100
	入会金			2,000
	正学会員会費			1,261,100
	維持会員会費			50,000
	未収金			4,959,341
	会誌・広告			122,760
	技報アーカイブ			1,135,120
	技報別刷			62,350
	技報バックナンバー			35,980
	テストチャート			2,452,910
	年次大会			151,860
	冬季大会			411,000
	MTA			189,765
	研究会			335,700
	その他			61,896
	前払金			19,800
	会誌作成費			19,800
	棚卸資産			10,731,884
	テストチャート完成品			9,963,599
	会誌50CD-ROM			768,285
	貯蔵品			174,500
	立替金			54,923
	その他			54,923
	仮払金			402,910
	その他			402,910
	貸倒引当金			-121,800
流動資産合計				73,613,674
(固定資産)				
	基本財産			3,000,000
	定期預金			3,000,000
	定期預金(一般)			3,000,000
	特定資産			127,082,049
	退職給付引当資産			643,414
	大和証券			643,414
	選奨基金			15,180,338
	みずほ銀行当座			180,338
	大和証券			15,000,000
	啓発普及基金			14,000,000

	みずほ銀行①		4,000,000
	大和証券		10,000,000
	研究・特別企画基金		26,597,768
	大和証券		20,000,000
	住友信託		4,253,683
	みずほ新橋②		2,344,085
	記念事業特定資		35,850,294
	郵便振替口座		8,167,940
	三井住友銀行		2,682,354
	大和証券		25,000,000
	会誌活性化等特定資産		23,871,500
	大和証券		23,000,000
	三菱UFJ信託普通		517,922
	みずほ青山当座		353,578
	事務局設備特定資産		860,310
	三菱UFJ信託		860,310
	鈴木記念賞特定		1,642,623
	みずほ当座		223,357
	三井住友		1,419,266
	発展事業基金		8,435,802
	みずほ銀行①		701,214
	郵便振替口座		7,734,588
その他固定資産			1,804,273
	ソフトウェア		5
	什器備品		1
	一括償却資産		89,467
	保証金		1,714,800
固定資産合計			131,886,322
資産合計			205,499,996
(流動負債)			
	未払金		10,651,457
	テストチャート		10,836
	会誌編集		15,480
	調査研究		33,118
	会誌発送		330,832
	Web-IT・会員管理		41,800
	システム		
	その他		10,219,391
	前受会費		116,400
	入会金		1,000
	正学会員会費		115,400
	預り金		383,014
	源泉所得税預り金		51,326
	住民税預り金		112,600
	健康保険預り		4,448
	厚生年金預り金		14,640
	その他		200,000
	賞与引当金		2,372,067
	未払法人税等		70,000
	未払消費税等		544,900
流動負債合計			14,137,838
(固定負債)			
	退職給付引当金		14,191,758
固定負債合計			14,191,758
負債合計			28,329,596
正味財産			177,170,400

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当すべき事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

什器備品・無形固定資産・一括償却資産
定額法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金・・・債権の貸倒れによる損失に備えるため、期末債権残高に一定率
を乗じて算出した額を計上している。

賞与引当金・・・翌期支払賞与の当該期間に相当する金額を計上している。

退職給付引当金・・・期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000	0	0	3,000,000
小 計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産				
選 奨 基 金	15,487,743	0	307,405	15,180,338
退 職 給 付 引 当 資 産	10,768,414	0	10,125,000	643,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000	0	0	14,000,000
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	0	0	26,597,768
発 展 事 業 基 金	8,224,880	231,000	20,078	8,435,802
特定資産支出				
記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294	0	0	35,850,294
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	25,871,500	0	2,000,000	23,871,500
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310	0	0	860,310
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,675,689	0	33,066	1,642,623
小 計	139,336,598	231,000	12,485,549	127,082,049
合 計	142,336,598	231,000	12,485,549	130,082,049

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定 期 預 金	3,000,000		3,000,000	
小 計	3,000,000		3,000,000	
特定資産				
選 奨 基 金	15,180,338		15,180,338	
退 職 給 付 引 当 資 産	643,414			643,414
社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000		14,000,000	
研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768		26,597,768	
発 展 事 業 基 金	8,435,802		8,435,802	
特定資産支出				
記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294		35,850,294	
会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	23,871,500		23,871,500	
事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310		860,310	
鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,642,623		1,642,623	
小 計	127,082,049		126,438,635	643,414
合 計	130,082,049		129,438,635	643,414

5. 固定資産の取得価額、増減、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
その他固定資産			
ソ フ ト ウ エ ア	3,924,615	3,924,610	5
そ の 他 工 具 備 品	966,000	965,999	1
合 計	4,890,615	4,890,609	6

6. 重要な後発事象

該当なし。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	基 本 財 産	3,000,000	0	0	3,000,000
	基本財産計	3,000,000	0	0	3,000,000
特定資産					
	選 奨 基 金	15,487,743	0	307,405	15,180,338
	退 職 給 付 引 当 資 産	10,768,414	0	10,125,000	643,414
	社 会 貢 献 活 動 基 金	14,000,000	0	0	14,000,000
	研 究 ・ 特 別 企 画 基 金	26,597,768	0	0	26,597,768
	発 展 事 業 基 金	8,224,880	231,000	20,078	8,435,802
	設 備 拡 充 等 特 定 資 産	0	0	0	0
	記 念 事 業 特 定 資 産	35,850,294	0	0	35,850,294
	会 誌 活 性 化 等 特 定 資 産	25,871,500	0	2,000,000	23,871,500
	事 務 局 設 備 引 当 資 産	860,310	0	0	860,310
	鈴 木 記 念 賞 特 定 資 産	1,675,689	0	33,066	1,642,623
	特定資産計	139,336,598	231,000	12,485,549	127,082,049

2. 引当金の明細

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
貸倒引当金	78,500	121,800	0	78,500	121,800
賞与引当金	2,286,265	85,802	0	0	2,372,067
退職給付引当金	17,972,448	6,344,310	10,125,000	0	14,191,758
引当金計	20,337,213	6,551,912	10,125,000	78,500	16,563,825

監査報告

2025年5月12日

一般社団法人 映像情報メディア学会

会長 鈴木 教 洋 殿

一般社団法人 映像情報メディア学会

監事 川 前 治 

監事 石 井 啓 二 

私たち監事は、2024年4月1日から2025年3月31日までの事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他理事の職務執行の監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録等の監査を実施しました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- (3) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録等は、当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上

2025年度役員改選選挙結果

2025年度役員改選選挙は、名誉会員および正会員の投票により行われ、以下の方々を選出した。
なお、理事の担務は5月30日開催の臨時理事会において協議のうえ正式に確定する。

＜投票期間：2月22日（金）0時～3月22日（土）24時＞

次期会長	： 寺田 健二	（日本放送協会）
副会長（本部）	： 蓑毛 研	（日本放送協会）
副会長（支部）	： 酒澤 茂之	（大阪工業大学）
総務担当理事	： 横山 徹	（日立製作所）
会計担当理事	： 安藤 慎吾	（湘南工科大学）
調査担当理事	： 堀内 俊治	（KDDI 総合研究所）
編集担当理事	： 浜田 宏一	（帝京大学）
企画担当理事	： 池辺 将之	（北海道大学）
監事	： 柳原 広昌	（KDDI 総合研究所）

2025年度事業計画

1 はじめに

映像情報メディア学会は、映像および情報メディア技術に関する学術・技術の発展と、これらを通じた社会貢献を目的として、長年にわたり多様な活動を展開してまいりました。技術革新のスピードが加速度的に高まる中、映像情報メディア分野は、AI、XR(拡張現実・仮想現実)、次世代通信技術、クラウド・エッジコンピューティングなどと融合しながら、新たな可能性を切り拓いています。こうした状況を背景に、学会は単なる研究成果の発表の場にとどまらず、産学官の連携や国際的な情報発信のハブとしての役割がますます重要となっています。

2025年度、本学会は「共創と連携による価値創出」を目指し、3つの基本施策に沿って学際的な対話を促進し、未来のメディア社会を切り拓く基盤づくりを一層強化してまいります。具体的には、年次大会や技術報告会、研究会のさらなる充実を図るとともに、若手研究者・学生への支援強化、女性・多様な人材の参画促進、そして業界との連携を深化させることを通じて、持続可能な研究・技術コミュニティの形成を目指します。

また、国際的な技術標準や研究動向に柔軟に対応するため、海外学協会との連携強化や国際会議への積極的な関与も推進してまいります。さらに、映像メディアの社会的責任や倫理的課題にも目を向け、社会に開かれた学会としての責務を果たすべく、広報・教育活動にも注力していきます。

【2025年度基本施策】

1-1 学会の活性化

2025年度の学会運営体制は、中心メンバーとなる17名の理事と、目的ごとに設置された11の委員会が、理事会にて情報共有を密に図りながら活動を進めていきます。各委員会は、2024年度に取りまとめたアクションプランと申し継ぎ事項を参考にし、学会活動の活性化と課題解決に積極的に取り組みます。理事会に関しては、全理事および監事が出席する定例理事会を計8回開催する予定であり、ハイブリッド開催やリモート開催を引き続き活用することで、理事の負担軽減と重要案件の効率的な審議を進めます。また、支部長や代表代議員の参加を求め、理事・支部・代議員が一体となった運営を実現します。

2025年度の予算編成は、前年度に引き続き赤字予算でのスタートを計画しています。技術報告の電子化や運営効率化により支出の抑制を図り、赤字幅の縮小に努めます。前年度同様、会議費の削減や支部からの戻入などによる経常費用の減少を期待しつつ、テストチャート頒布事業の推進や技報アーカイブ収入の増加を目指します。調査研究費の予算配分算出データに活動実績評価項目を追加して、活動のモチベーションを維持しながら限られた財源を有効活用します。また、2025年度は研究会聴講参加費/年間登録費の価格改定を適用し、各研究会の活性化につなげていきます。

学会活性化の最重要課題である会員増加に向けて、「アカデミックパートナー制度」をさらに促進し、特に若手研究者の会員登録を拡大します。また、冬季大会/年次大会への学生の参加を

促すために、参加・発表しやすい開催時期や興味を引く企画の立案などを検討し、学生時代から学会への興味を持ってもらえる機会を提供します。その他、退会者が集中する 1～3 月期の入会案内・会員継続等の広報活動強化を実施します。

本部と地方支部の連携強化の施策として、各支部長または支部長代理が理事会に参加し、理事会の活動内容を把握する機会を設けます。オンライン開催の利点を活かしつつ、対面での会合開催も取り入れたハイブリッド形式での意見交換の機会を増やし、年次大会・冬季大会・支部大会などを活用して、本部と支部の運営や課題共有を進めてまいります。

テストチャートの頒布事業では、2019 年 3 月に開始した 4K・8K 映像の超高精細・広色域 HDR 版標準動画像(C シリーズ)に加え、2022 年 4 月に頒布を開始した C シリーズ第 2 版の普及をさらに推進します。加えて、高フレームレート版の標準動画像(D シリーズ)や三次元マルチチャンネル標準音源(B シリーズ)など、次世代の需要に対応するべく制作検討を進め、早期の頒布開始の実現と引き合いの拡大を図ります。

1－2 新分野の開拓

新分野開拓の取り組みとして、国内外の関連学会との連携を引き続き強化してまいります。IEEE との MOU (Memorandum of Understanding) 締結を継続し、各研究委員会と IEEE JC (Japan Council) との連携開催をさらに深化させます。また、韓国放送メディア技術学会 (KIBME: The Korean Institute of Broadcast and Media Engineers) との連携を継続し、相手方大会での基調講演や、年次大会でのジョイントセッションの企画を推進いたします。さらに、ディスプレイ国際ワークショップ (IDW2025) における米 SID との共催など、国際連携委員会での検討を進めると同時に、他学会との関係維持と強化に努めます。

学会誌においては、「生成 AI」「空飛ぶクルマの最新動向」など、従来の枠にとらわれない新たな技術や活用領域について特集を組む予定です。和文論文誌においては、各研究委員会との連携を強化し、特集号の充実や新テーマの企画を進めます。さらに、X (旧 Twitter) や Facebook などの SNS を活用した論文募集を継続し、幅広い投稿を奨励します。英文論文誌 MTA では、Impact Factor1.1 の取得により海外からの投稿増が期待される中、新規テーマの企画を推進しつつ、国際発信力の向上を目指します。また、投稿から最初の判定までを通常の投稿よりも短縮化する「短期査読論文」「短期査読フィールド論文」の募集をし、学生や現場の成果の投稿をしやすくします。その他、和文・英文いずれかで投稿され、査読を経て採録・公開された論文をもう一方の言語に翻訳し、アーカイブ的な位置づけで公開する「論文の相互翻訳」も継続してまいります。

さらに、心理や感性、ヒューマンファクターをテーマにした研究会では、研究会の開催を通じて、新たな分野の開拓を継続的に推進します。

1-3 広報活動と会員サービスの拡充

各種 SNS や学会ホームページ（本部・支部）、メーリングリストを通じた情報発信は、2025 年度も引き続き有効な広報手段として積極的に活用します。業界紙への広告出稿をはじめ、ターゲットを絞った効果的な広告戦略をさらに強化し、学会の認知度向上を目指します。

青少年及び社会に向けた啓発普及活動として、一般市民も対象とした無料の公開講演会を年次大会行事として開催することを計画しています。また、冬季大会でも一般向け公開講演会の開催を検討し、広く社会との交流を促進します。

図書の企画・刊行活動では、学会誌に掲載される連載講座や連載シリーズの単行本化、そして学会ホームページでの公開を引き続き推進します。「知っておきたいキーワード」「年報」「きらり。中のヒト」「ベンチャービジネス」「講座」などのコンテンツは、引き続きホームページでの全文公開を継続します。また、連載講座はシリーズ終了後に全文公開を行い、さらなる知識の普及に努めます。

表彰・奨励の継続においては、素晴らしい成果を挙げた会員に対し、丹羽高柳賞、鈴木記念奨励賞、技術振興賞、映像情報メディア未来賞、学生優秀発表賞、優秀研究発表賞を引き続き贈呈します。また、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展や本会活動に顕著な貢献をした会員の中から、本会フェローを選定します。さらに、長年在会いただいた会員の会費を無料とする制度の実現に向けた検討を引き続き行います。

学会ホームページの改善については、情報がより探しやすく見やすくなることを目指して、ユーザーエクスペリエンス（UX）向上の観点から検討を進めます。新しい技術やデザインを活用し、情報発信のさらなる質の向上を図ります。

2. 機関誌・論文集・研究会資料等の刊行（定款 第4条（1））

（1）会誌関係

①冊子体

編集委員会（編集長：亀山 渉）において、会員に新しい情報を提供するとともに、会員の研究発表の場として「映像情報メディア学会誌」を編集、発行し（隔月（奇数月））、会員に配布します。内容については、特集号を中心に企画し、下記の項目を予定しています。

また、特集以外に、タイムリーな技術解説記事、教科書的な連載講座、平易で読み物的な解説記事、年次・冬季大会との連動企画記事、研究委員会、支部との連携による解説記事など、多様な会員のニーズを満たすべく、バランスのとれた魅力的な誌面を目指します。会誌関連動画コンテンツなど、Web サイトとの連携強化を継続して誌面の魅力向上に努めます。学会HPでは＜知っておきたいキーワード＞＜年報＞＜きらり。中のヒト＞＜研究開発ツール＞＜ベンチャービジネス＞を、引き続き全文公開いたします。連載講座については、シリーズ終稿後に全文公開を行います。

会誌の電子化については、現状冊子体作成収支、電子化した場合の経費を比較し、赤字の減少が見込めることから、完全電子化を進めることとしたし、「会誌電子化」タスクフォースを設置し、電子化に向けた具体化を開始いたしました。学会 HP、会員マイページの構築と並行して行い、引き続き電子化に向けての検討を行います。

(冊子体)

巻	月号	通巻号	特 集 題 目 案	奥付発行年月日	発行部数
79	5	860	放送局における CO ₂ 削減の取り組み	2025 年 5 月 1 日	2,500
79	7	861	精神健康を見守るためのセンシング技術	2025 年 7 月 1 日	2,500
79	9	862	人をだます技術、AI をだます技術	2025 年 9 月 1 日	2,500
79	11	863	A: コンピュータグラフィックス技術の最前線	2025 年 11 月 1 日	2,500
			B: 空飛ぶクルマの最新動向（関西支部企画提案）		
80	1	864	HMD の最新動向	2026 年 1 月 1 日	2,500
80	3	865	バーチャルプロダクション、バーチャルスタジオの最新動向	2026 年 3 月 1 日	2,500

(2) 論文関係

①和文論文

和文論文編集委員会において、オンラインジャーナルとして冊子体学会誌発行と同時期に全文を一般公開します。内容については、下記特集を予定しています。また、各研究委員会との連携を一層強化し、特集号の充実を図ります。また、新たな試みとして「年次・冬季大会講演特集」と「短期査読論文特集」を融合させた「短期査読フィールド論文特集 ～2024 年冬季大会講演を中心に～」などを企画し、論文投稿数、掲載数の増加に努力します。学会 Facebook およびメールマガジンにより、継続して論文募集を行います。

(オンラインジャーナル/投稿欄)

巻	月号	特 集 題 目 案	公開年月日
79	5	一般論文	2025 年 5 月 1 日
79	7	2024 年年次大会講演	2025 年 7 月 1 日
79	9	一般論文	2025 年 9 月 1 日
79	11	ディスプレイ IDW' 24 を中心にー	2025 年 11 月 1 日
		短期査読フィールド論文特集 ～2024 年冬季大会講演を中心に～	
80	1	選奨（技術振興賞/映像情報メディア未来賞）受賞者論論文（招待論文）	2026 年 1 月 1 日
		短期査読論文	
80	3	一般論文	2026 年 3 月 1 日

②英語論文（MTA）

MTA 編集委員会において、会員のグローバルな研究発表の場としてオンラインジャーナル「ITE Transactions on Media Technology and Applications（略称、MTA）」を編集、年4回発行し、全文を一般公開します。内容については、毎号特集を中心に企画し、下記を予定しています。また、新たな試みを企画し、幅広く投稿勧誘を行うなど、一定数以上の投稿数ならびに掲載数の確保に努力します。2023年6月のImpact Factor取得後も、MTAの引用数の増加と国際発進力の強化を引き続き行います。また、他誌に比べて低額の料金設定としていたMTAの掲載料金について、値上げの検討を行っています。

Vol., No.	Special Section Title	公開年月日
Vol.12, No.3	Regular Section	2025年7月1日
Vol.12, No.4	IDW' 24	2025年10月1日
	KIBME-ITE Joint Special Section	
Vol.13, No.1	3D Media Technology 2026	2026年1月1日
	Fast-track Review	
Vol.13, No.2	Regular Section	2026年4月1日

（3）大会講演予稿集の発行

①年次大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）作成。

参加予定人数：250名

②冬季大会講演予稿集（Webダウンロード版およびCD-R版）作成。

参加予定人数：200名

（4）研究会資料「技術報告」の刊行

研究会資料「映像情報メディア学会技術報告」（オンライン版）を約40分冊発行します。

3. 調査研究活動（定款第4条（3））

学会の最も基本的な活動である研究活動については、最近の急速な技術の進展に対処するため、例年以上に積極的に推進します。

技術委員会（委員長：相澤清晴）において、広汎かつ長期にわたる観点から研究活動の現況を把握し、研究委員会の活動を統轄調整し、その円滑な運営をはかります。研究会の活性化についても、鋭意検討を進めます。研究活動を実施するための下記委員会を置きます。

研究委員会が開催する研究会は、会員が積極的に発表・討議に参加できるよう公開開催とします。研究会発表資料「映像情報メディア学会技術報告」は、2022年度をもって冊子体の作成・発行を終了し、2023年度よりオンライン配付に移行しました。

また昨年度、研究会聴講参加費および年間登録費の価格見直しを行いました。5月以降、改定価格にて、現地開催、ハイブリッド開催、オンライン開催等の研究会開催形態を適宜選択し、実施することとします。

(1) <研究会年間予定>

「情報センシング研究会」委員長：徳田 崇（東京科学大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 6月 5日 ～ 6日	石川	マルチメディアデータ・映像・画像・信号の取得・処理・解析・認証と応用	未 定	20～30 名
7 月	北海道	アナログ, アナデジ混載, RF 及びセンサインタフェース回路, 低電圧/低消費電力技術, 新デバイス・回路とその応用	未 定	20～30 名
9 月	東京	イメージセンサ	未 定	20～30 名
11 月	東京	先端 CMOS イメージセンサと生体イメージング	未 定	20～30 名
2026年 2 月	東京	赤外線センサ（赤外放射の応用関連学会）	未 定	20～30 名
3 月	東京	固体撮像技術	未 定	20～30 名

「情報ディスプレイ研究会」委員長：中村篤志（静岡大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 8 月	東京	ディスプレイ	未 定	20～30 名
9 月	東京	立体映像およびホログラフィー, 画像技術, VR/AR, ヒューマンファクター関連	未 定	20～30 名
11 月	未定	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2026年 1 月	香川	発光型・非発光型ディスプレイ	未 定	20～30 名
3 月	未定	ディスプレイ技術シンポジウム	未 定	20～30 名

「マルチメディアストレージ研究会」委員長：木下延博（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 6月 5日 6 日	宮城	記録システム・ヘッド・媒体	未 定	20～30 名
10 月	未定	機能性材料・薄膜プロセス・材料・デバイス・スピントロニクス・固体メモリ	未 定	20～30 名
12 月 4日 5 日	愛媛	信号処理, ホログラム	未 定	20～30 名
2026年 2 月	北海道	画像処理, 映像メディア	未 定	20～30 名

「放送技術研究会」委員長：岡田 実（奈良先端科学技術大学院大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 6 月 6 日	東京	番組制作技術・送出技術	未 定	20～30 名
7 月 24日 25 日	北海道	放送現業技術・送受信技術、移動送受信技術、画像符号化・通信・ストリーム技術	未 定	20～30 名

10月 2日 3日	福井	放送・通信連携，システム実現技術，近距離通信応用システム，知的マルチメディア処理システム	未 定	20～30 名
10月 17日	東京	放送設備見学会：NHK	未 定	20～30 名
11月 6日 7日	広島	放送技術，有線技術，光技術等	未 定	20～30 名
2026年 1月 22日 23日	九州	アンテナ・伝搬，マイクロ波における学生若手発表	未 定	20～30 名
3月 5日 6日	盛岡	学生若手発表、デジタル放送技術	未 定	20～30 名

「ヒューマンインフォメーション研究会」委員長：原澤賢充（NHK）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 6月 18日 19日	東京	人工現実感，エンタテインメント，メディアエクスペリエンス	未 定	20～30 名
11月	未定	視聴覚の基礎と応用，VR 心理学，感性情報処理	未 定	20～30 名
2026年 2月	未定	VR 心理，ヒューマン情報処理，聴覚，視覚，マルチモーダル	未 定	20～30 名
3月	オンライン	視聴覚の基礎と応用、感性情報処理、ヒューマンインターフェース	未 定	20～30 名

「メディア工学研究会」委員長：東海彰吾（福井大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 6月 5日 6日	石川	マルチメディアデータ・映像・画像・信号の取得・処理・解析・認証と応用	未 定	20～30 名
8月	未定	サマーセミナー（若葉研究者の集い）	未 定	20～30 名
9月	未定	マルチメディア通信/システム，ライフログ活用技術，IP 放送/映像伝送，メディアセキュリティ，メディア処理(AI，深層学習)	未 定	20～30 名
10月	未定	画像・メディア処理技術	未 定	20～30 名
2026年 1月	未定	I W A I T 2 0 2 6	未 定	20～30 名
2月	オンライン	学生研究発表会	未 定	20～30 名
2月	北海道	画像処理，映像メディア	未 定	20～30 名

「映像表現&コンピュータグラフィックス研究会」委員長：白石路雄（東邦大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 6月 30日 7月 1日	長野	画像一般（色再現，立体映像，CG，VR，アニメーション技術，画像処理，ME 関係，画像符号化）	未 定	20～30 名
9月	東京	立体映像およびホログラフィー，画像技術，VR/AR，ヒューマンファクター関連	未 定	20～30 名
11月	未定	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2026年 1月	未定	I W A I T 2 0 2 6	未 定	20～30 名
2月	北海道	画像処理，映像メディア	未 定	20～30 名
3月	東京	映像表現・芸術科学フォーラム2025	未 定	20～30 名

「アントレプレナー・エンジニアリング研究会」委員長：金藤正直（法政大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 9月	東京	起業工学から見たイノベーションに関する研究4	未 定	20～30 名
2026年 3月	東京	起業工学から見たイノベーションに関する研究5	未 定	20～30 名

「立体メディア技術研究会」委員長：高木康博（東京農工大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 7月24日 25日	東京	空間メディアコンファレンスシンポジウム	未 定	20～30 名
9月	東京	立体映像およびホログラフィー，画像技術，VR/AR，ヒューマンファクター関連	未 定	20～30 名
10月	東京	AR/VR/メタバース/AI 技術における立体映像、立体音響、立体メディア技術一般、及び人間工学的安全性	未 定	20～30 名
11月	東京	高臨場感ディスプレイフォーラム	未 定	20～30 名
2026年 3月	東京	AR/VR/メタバース/AI 技術における立体映像、立体音響、立体メディア技術一般、及び人間工学的安全性	未 定	20～30 名

「スポーツ情報処理研究会」委員長：角田 貢（日体体育大学）

開催月日	場 所	特集テーマ	演題数	参加予定数
2025年 11月	未定	スポーツ情報処理	未 定	20～30 名
2026年 2月	北海道	画像処理，映像メディア	未 定	20～30 名

4. 大会，講演会の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する大会を企画し，会員のみならず，広くわが国の技術レベルを高めるべく，適正規模で開催します。

（1）2025 年度年次大会（主催）

2025 年 8 月 27 日～29 日の 3 日間，東京理科大学 葛飾キャンパスにおいて開催します。Zoom を併用したハイブリッド開催を予定しています。このための実行委員会（委員長 松田一朗／副会長）を置き，運営にあたります。

（2）2025 年度冬季大会（主催）

実行委員会（委員長 蓑毛 研／副会長）を置き，時期・場所の検討を進めるとともに，大会の運営にあたります。

5. 国際会議の企画開催（定款 第4条（4））

映像情報メディアに関する国際会議に積極的に取り組み，海外との交流を図ります。

（1）IEEE と MOU (Memorandum of Understanding) 締結の継続により各研究委員会と IEEE JC との連携開催に取り組みます。

- (2) KIBME(韓国放送メディア学会)とのジョイントセッションを 2025 年度年次大会の企画セッションとして開催します。
- (3) KIBME(韓国放送メディア学会)が 2025 年 11 月中旬に主催する KIBME FALL CONFERENCE 2025 の基調講演を本会が担当します。
- (4) 第 32 回国際ディスプレイワークショップ (IDW2025) (共催)
2025 年 12 月 3 日～5 日の 3 日間、広島国際会議場において、アメリカ SID と共催します。

6. ITE テストチャートの作成・頒布(定款 第 4 条(2))

ITE テストチャート委員会(委員長：日下部裕一)を中心に次の事業展開を行います。

- (1) 超高精細・広色域標準動画像小委員会(主査：松田一朗)は, ARIB 評価シーケンス作業班(主任:篠田成彦)と共同で超高精細・広色域標準動画像 D シリーズ(HFR：ハイフレームレート版, 120P, 240P)の検討を継続します。また, 2022 年 4 月に頒布を開始した「超高精細・広色域 HDR 版標準動画像 第 2 版」の普及に努めます。
- (2) 三次元マルチチャンネル音響標準音源小委員会(主査：中山靖茂)は ARIB 音声品質評価法作業班(主任:大出訓史)と共同でオブジェクトベース標準音源の制作を昨年度完了しました。解説書の執筆完了後, 「三次元マルチチャンネル音響標準音源 B シリーズ」として早期の頒布開始を目指します。

7. 図書の刊行・企画(定款 第 4 条(2) 項)

編集委員会(編集長：亀山 渉)は, 会誌連載講座, 会誌連載シリーズなどの単行本化などを検討します。出版が困難な場合は, 会員サービスとして, 学会ホームページにて全文公開します。

8. 研究の奨励および業績の表彰(定款 第 4 条(5))

(1) 学会賞関係

選奨委員会(委員長：松田一朗／副会長)において, 本会にふさわしい選奨のありかた, 選定方法等について検討を行います。その結論に基づき, 丹羽高柳賞, 技術振興賞, 鈴木記念奨励賞, 映像情報メディア未来賞の諸賞を選定し, 贈呈いたします。また年次大会・冬季大会で優秀な講演を行った学生・高専生を対象に, それぞれの大会実行委員会で選定し, 「学生優秀発表賞」を贈呈いたします。研究会での発表を対象とした優秀発表は, 各研究委員会が選定し, 「優秀研究発表賞」を贈呈いたします。

① 丹羽高柳賞：功績賞：2 名以内

〃 業績賞：2 件以内

〃 論文賞：3 編以内

② 鈴木記念奨励賞：5 名以内

③ 技術振興賞：進歩開発賞(現場運用部門)：3 件以内

〃 進歩開発賞（研究開発部門）：3 件以内

〃 コンテンツ技術賞：3 件以内

④映像情報メディア未来賞：3 件以内

⑤学生優秀発表賞：年次大会：5 件以内

〃 冬季大会：5 件以内

⑥優秀研究発表賞：10 件～15 件程度

（2）フェロー会員の認定

フェロー選定委員会（委員長：養毛 研／副会長）において、テレビジョンを含む映像情報メディアに関する学術の発展と本会活動に貢献された正会員の中から、フェロー選出規程第 13 条第 1 項「単年度に選出されるフェロー会員数については、正会員および名誉会員の合計数の 0.2%程度を上限とする。」に基づき、フェロー会員を認定します。

9. 青少年および社会に対する啓発普及（定款 第 4 条（7））

一般市民も対象にした公開講演会（入場無料）の開催を、2025 年年次大会行事として検討しています。また、2025 年冬季大会においても、一般向け公開講演会等の開催を検討いたします。

10. 会議および委員会等（定款 第 4 条（8））

（1）第 72 回定時社員総会：2026 年 5 月 29 日（金）開催

（2）理事会：6 月・7 月・10 月・12 月・1 月・3 月・4 月・5 月の 8 回開催

（年 3 回、会長が指名する代表代議員の参加を予定、また支部長にはオンラインによる参加を要請）

（3）広報委員会：随時開催

（4）編集関係委員会

①編集委員会（企画委員会）：年 7 回開催

②同（年次企画委員会）：年 3 回開催

③同（海外文献部門委員会）：文献調査はメール審議で行い、議案があれば委員会を開催

④同（ニュース部門委員会）：見聞記を執筆する展示会のリストアップは、メール審議で行い、展示会で取材を行う。議案があれば委員会を開催

（5）論文委員会（和文論文運営委員会、英語論文運営委員会）：6 月・10 月・2 月の 3 回開催

（6）技術委員会：4 月～3 月の期間に 3 回～4 回開催

（7）選奨関係委員会

①選奨委員会：第 1 回会議を 11 月に開催し、前年度申継事項および諸課題を検討

②「技術振興賞」進歩開発賞（現場運用部門）・（研究開発部門）選考専門部会：3 月に開催

③「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会：3 月に開催（地方開催予定）

④「映像情報メディア未来賞」選考専門部会：3 月に開催

⑤「丹羽高柳賞」功績賞・業績賞・論文賞の選考

※功績賞・業績賞は推薦件数により 1 回または 2 回投票，論文賞は 1 回投票

⑥「鈴木記念奨励賞」の選考（2 回投票）

（8）フェロー選定委員会：2 回開催（推薦締切を 12 月末，第 1 回委員会は 1 月開催予定）

（9）テストチャート委員会：随時開催

（10）国際連携委員会

①2025 年年次大会「KIBME とのジョイントセッション」開催

②その他，海外学会との交流

（11）映像情報メディア発展事業資金運営委員会：随時開催

（12）長期計画検討委員会：随時開催

（13）電気・情報関連学会連絡協議会：年 2 回参加（7 月・1 月）

以上

2025年度予算報告書

自 2025年 4月 1日

至 2026年 3月 31日

一般社団法人 映像情報メディア学会

収支予算書

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

一般社団法人映像情報マイア学院

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用受益	45,000	25,000	20,000
基本財産受取金	45,000	25,000	20,000
特定資産運用受益	455,000	400,000	55,000
特定資産受取金	455,000	400,000	55,000
受取入金	20,000	20,000	0
受取入金	20,000	20,000	0
受取会費	42,564,000	45,765,000	-3,201,000
正学学生会員会費	20,659,000	23,500,000	-2,841,000
維持学生会員会費	20,350,000	20,625,000	-275,000
特定学生会員会費	580,000	600,000	-20,000
アミューズメント	975,000	1,040,000	-65,000
事業収益	15,790,000	14,910,000	880,000
会誌関係収入	3,650,000	3,500,000	150,000
会誌頒布収入	720,000	750,000	-30,000
年次大会収入	2,200,000	2,000,000	200,000
冬季大会収入	1,300,000	1,200,000	100,000
講習会収入	300,000	260,000	40,000
研究會収入	3,100,000	2,000,000	1,100,000
技術報告収入	1,500,000	1,500,000	0
図書関係収入	20,000	0	20,000
イラスト収入	3,000,000	3,700,000	-700,000
受取寄付金	500,000	500,000	0
発展事業寄付金	500,000	500,000	0
雑収入	221,000	201,000	20,000
受取利息	1,000	1,000	0
雑収益	220,000	200,000	20,000
経常収益計	59,595,000	61,821,000	-2,226,000
(2) 経常費用			
事業費	51,275,000	54,416,600	-3,141,600
給料手当	19,641,000	21,338,800	-1,697,800
派遣賃金	760,000	715,000	45,000
福利厚生費	2,844,000	2,274,700	569,300
旅費	210,000	830,000	-620,000
通信費	2,598,000	2,556,000	42,000
消耗什器備品費	160,000	0	160,000
消耗品費	1,445,000	1,206,000	239,000
修繕費	50,000	50,000	0
印刷製本費	5,874,000	6,527,900	-653,900
賃借料	5,651,000	5,617,000	34,000
支払リース料	557,000	569,900	-12,900
諸会謝礼金	1,380,000	1,000,000	380,000
会費	840,000	910,000	-70,000
支払謝金	790,000	1,110,000	-320,000
支払助成金	140,000	50,000	90,000
広報宣伝費	219,000	328,000	-109,000
委託書費	5,575,000	6,232,000	-657,000
図書費	400,000	920,000	-520,000
雑法	141,000	181,300	-40,300
法人税等	2,000,000	2,000,000	0
管理費	23,113,000	22,865,200	247,800
給料手当	8,360,000	9,083,300	-723,300
派遣賃金	620,000	600,000	20,000
退職給付費用	0	0	0
福利厚生費	1,156,000	925,200	230,800
旅費	192,000	192,000	0
通信費	173,000	128,000	45,000
消耗品費	379,000	225,000	154,000
修繕費	50,000	50,000	0
賃借料	1,508,000	1,508,100	-100
支払リース料	323,000	330,000	-7,000
諸会費	150,000	180,000	-30,000
租税公課	400,000	100,000	300,000
会費	1,355,000	1,364,000	-9,000
支払謝金	0	0	0
広報宣伝費	0	8,000	-8,000
委託書費	4,735,000	4,920,000	-185,000
雑費	162,000	151,600	10,400
W eb - I 費	2,200,000	1,900,000	300,000
会員管理費	600,000	450,000	150,000
発展事業資金	250,000	250,000	0
法人税等	500,000	500,000	0
経常費用計	74,388,000	77,281,800	-2,893,800
評価損益等調整前当期経常増減額	-14,793,000	-15,460,800	-667,800
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	-14,793,000	-15,460,800	-667,800
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-14,793,000	-15,460,800	-667,800
一般正味財産期首残高	0	0	0
一般正味財産期末残高	-14,793,000	-15,460,800	-667,800
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	-14,793,000	-15,460,800	-667,800

収支予算書内訳表

2025年 4月 1日から2026年 3月31日まで

一般社団法人映像情報バ'17学会

科 目	実施事業				その他会計(収)		
	会誌関係事業	研究会関係事業	表彰、コンクール	共通	技術報告関係	図書関係	テストチャート関係
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
基本財産運用益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産受取利益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利益	0	0	0	0	0	0	0
受取入金会金	0	0	0	0	0	0	0
受取入金会費	0	0	0	0	0	0	0
正学学生会員会費	0	0	0	0	0	0	0
維持特殊会費	0	0	0	0	0	0	0
アガ'ミックバートナー	0	0	0	0	0	0	0
事業収益	3,670,000	3,000,000	0	0	1,500,000	0	3,000,000
会誌関係係収	3,650,000	0	0	0	0	0	0
年会次大頒布収	0	0	0	0	0	0	0
冬季大会収	0	0	0	0	0	0	0
講習研究会収	0	0	0	0	0	0	0
研究會収	0	3,000,000	0	0	0	0	0
技術報告係収	0	0	0	0	1,500,000	0	0
図書関係係収	20,000	0	0	0	0	0	0
テストチャート収入	0	0	0	0	0	0	3,000,000
本研究部等補助金	0	0	0	0	0	0	0
研究会寄附金	0	0	0	0	0	0	0
受取事業寄附金	0	0	0	0	0	0	0
発展事業収益	20,000	0	0	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	20,000	0	0	0	0	0	0
経常収益計	3,690,000	3,000,000	0	0	1,500,000	0	3,000,000
(2) 経常費用							
事業費	19,974,000	4,715,000	2,095,000	600,000	10,000	0	419,000
給料手当	3,831,000	582,000	1,019,000	0	0	0	0
派遣賃金	400,000	200,000	0	0	0	0	0
福利厚生費	617,000	94,000	164,000	0	0	0	0
旅交通費	10,000	50,000	0	0	0	0	10,000
通信費	2,114,000	207,000	32,000	0	4,000	0	40,000
消耗什器品費	0	0	0	0	0	0	160,000
消耗品費	449,000	100,000	170,000	0	6,000	0	100,000
修繕費	50,000	0	0	0	0	0	0
印刷製本費	5,816,000	0	0	0	0	0	0
賃借料	702,000	2,343,000	645,000	0	0	0	0
支払リース料	241,000	36,000	64,000	0	0	0	0
諸会謝礼金	300,000	350,000	0	0	0	0	0
支払負債担金	140,000	60,000	0	0	0	0	0
支払助成金	0	300,000	0	0	0	0	0
広報宣伝費	0	0	0	0	0	0	109,000
広委託書費	4,900,000	310,000	0	0	0	0	0
図雑費	400,000	0	0	0	0	0	0
雑法	4,000	83,000	1,000	0	0	0	0
管人税費	0	0	0	600,000	0	0	0
給料手当	0	0	0	0	0	0	0
派遣賃金	0	0	0	0	0	0	0
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0
旅交通費	0	0	0	0	0	0	0
通信費	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	0	0	0	0	0	0	0
賃借料	0	0	0	0	0	0	0
支払リース料	0	0	0	0	0	0	0
支諸租税公費	0	0	0	0	0	0	0
支会議公費	0	0	0	0	0	0	0
支払分宣担金	0	0	0	0	0	0	0
支広委託費	0	0	0	0	0	0	0
支委託費	0	0	0	0	0	0	0
支雑費	0	0	0	0	0	0	0
W e b 一 I	0	0	0	0	0	0	0
会員管理理費	0	0	0	0	0	0	0
支展部交入金	0	0	0	0	0	0	0
支展事業資金	0	0	0	0	0	0	0
支法人税等	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	19,974,000	4,715,000	2,095,000	600,000	10,000	0	419,000
評価損益等調整前当期経常増減額	-16,284,000	-1,715,000	-2,095,000	-600,000	1,490,000	0	2,581,000
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-16,284,000	-1,715,000	-2,095,000	-600,000	1,490,000	0	2,581,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-16,284,000	-1,715,000	-2,095,000	-600,000	1,490,000	0	2,581,000
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	-16,284,000	-1,715,000	-2,095,000	-600,000	1,490,000	0	2,581,000
II 指定正味財産増減の部							
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	-16,284,000	-1,715,000	-2,095,000	-600,000	1,490,000	0	2,581,000

(単位：円)

会誌頒布	共通	その他会計(公)				法人会計	本部合計	支部合計	内部消去	合 計
		年次大会	冬季大会	講演会	共通	法人会計			一般事業	
0	0	0	0	0	0	45,000	45,000	0	0	45,000
0	0	0	0	0	0	45,000	45,000	0	0	45,000
0	0	0	0	0	0	455,000	455,000	0	0	455,000
0	0	0	0	0	0	455,000	455,000	0	0	455,000
0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	0	42,564,000	42,564,000	0	0	42,564,000
0	0	0	0	0	0	20,659,000	20,659,000	0	0	20,659,000
0	0	0	0	0	0	20,350,000	20,350,000	0	0	20,350,000
0	0	0	0	0	0	580,000	580,000	0	0	580,000
0	0	0	0	0	0	975,000	975,000	0	0	975,000
720,000	0	2,200,000	1,300,000	0	0	0	15,390,000	5,763,000	-5,363,000	15,790,000
0	0	0	0	0	0	0	3,650,000	0	0	3,650,000
720,000	0	0	0	0	0	0	720,000	0	0	720,000
0	0	2,200,000	0	0	0	0	2,200,000	0	0	2,200,000
0	0	0	1,300,000	0	0	0	1,300,000	0	0	1,300,000
0	0	0	0	0	0	0	0	300,000	0	300,000
0	0	0	0	0	0	0	3,000,000	100,000	0	3,100,000
0	0	0	0	0	0	0	1,500,000	0	0	1,500,000
0	0	0	0	0	0	0	20,000	0	0	20,000
0	0	0	0	0	0	0	3,000,000	0	0	3,000,000
0	0	0	0	0	0	0	0	5,333,000	-5,333,000	0
0	0	0	0	0	0	0	0	30,000	-30,000	0
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	0	0	0	0	0	201,000	221,000	0	0	221,000
0	0	0	0	0	0	1,000	1,000	0	0	1,000
0	0	0	0	0	0	200,000	220,000	0	0	220,000
720,000	0	2,200,000	1,300,000	0	0	43,785,000	59,195,000	5,763,000	-5,363,000	59,595,000
0	11,638,000	1,055,000	855,000	0	7,536,000	0	48,897,000	2,378,000	0	51,275,000
0	8,744,000	0	0	0	5,465,000	0	19,641,000	0	0	19,641,000
0	0	80,000	80,000	0	0	0	760,000	0	0	760,000
0	1,212,000	0	0	0	757,000	0	2,844,000	0	0	2,844,000
0	0	30,000	10,000	0	0	0	110,000	100,000	0	210,000
0	11,000	40,000	30,000	0	7,000	0	2,485,000	113,000	0	2,598,000
0	0	0	0	0	0	0	160,000	0	0	160,000
0	0	170,000	150,000	0	0	0	1,145,000	300,000	0	1,445,000
0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	0	50,000
0	11,000	0	10,000	0	7,000	0	5,844,000	30,000	0	5,874,000
0	813,000	110,000	110,000	0	508,000	0	5,231,000	420,000	0	5,651,000
0	133,000	0	0	0	83,000	0	557,000	0	0	557,000
0	0	200,000	180,000	0	0	0	1,030,000	350,000	0	1,380,000
0	0	300,000	160,000	0	0	0	660,000	180,000	0	840,000
0	0	0	0	0	0	0	300,000	490,000	0	790,000
0	0	0	0	0	0	0	0	140,000	0	140,000
0	0	55,000	55,000	0	0	0	219,000	0	0	219,000
0	0	60,000	60,000	0	0	0	5,330,000	245,000	0	5,575,000
0	0	0	0	0	0	0	400,000	0	0	400,000
0	14,000	10,000	10,000	0	9,000	0	131,000	10,000	0	141,000
0	700,000	0	0	0	700,000	0	2,000,000	0	0	2,000,000
0	0	0	0	0	0	25,091,000	25,091,000	3,385,000	-5,363,000	23,113,000
0	0	0	0	0	0	8,360,000	8,360,000	0	0	8,360,000
0	0	0	0	0	0	620,000	620,000	0	0	620,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	1,156,000	1,156,000	0	0	1,156,000
0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	172,000	0	192,000
0	0	0	0	0	0	48,000	48,000	125,000	0	173,000
0	0	0	0	0	0	324,000	324,000	55,000	0	379,000
0	0	0	0	0	0	50,000	50,000	0	0	50,000
0	0	0	0	0	0	1,508,000	1,508,000	0	0	1,508,000
0	0	0	0	0	0	323,000	323,000	0	0	323,000
0	0	0	0	0	0	150,000	150,000	0	0	150,000
0	0	0	0	0	0	400,000	400,000	0	0	400,000
0	0	0	0	0	0	630,000	630,000	725,000	0	1,355,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	2,500,000	2,500,000	2,235,000	0	4,735,000
0	0	0	0	0	0	89,000	89,000	73,000	0	162,000
0	0	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000	0	0	2,200,000
0	0	0	0	0	0	600,000	600,000	0	0	600,000
0	0	0	0	0	0	5,363,000	5,363,000	0	-5,363,000	0
0	0	0	0	0	0	250,000	250,000	0	0	250,000
0	0	0	0	0	0	500,000	500,000	0	0	500,000
0	11,638,000	1,055,000	855,000	0	7,536,000	25,091,000	73,988,000	5,763,000	-5,363,000	74,388,000
720,000	-11,638,000	1,145,000	445,000	0	-7,536,000	18,694,000	-14,793,000	0	0	-14,793,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
720,000	-11,638,000	1,145,000	445,000	0	-7,536,000	18,694,000	-14,793,000	0	0	-14,793,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
720,000	-11,638,000	1,145,000	445,000	0	-7,536,000	18,694,000	-14,793,000	0	0	-14,793,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
720,000	-11,638,000	1,145,000	445,000	0	-7,536,000	18,694,000	-14,793,000	0	0	-14,793,000
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
720,000	-11,638,000	1,145,000	445,000	0	-7,536,000	18,694,000	-14,793,000	0	0	-14,793,000

2025年度 予算 -支部合算-

(単位:円)

科 目	要求合計額	備 考
I. 事業活動収支の部		
1. 事業活動収入		
本部交付金	5,333,000	
研究会等補助金収入	30,000	
事業収入	400,000	
連合大会	0	
講習会収入	300,000	
講演会収入	0	
見学会収入	0	
研究会収入	100,000	
年次大会	0	
雑収入	100	
連合大会繰入金	0	
事業活動収入計	5,763,100	
2. 事業活動支出		
事業費支出	2,378,000	
連合関係費	620,000	
講習会費	210,000	
講演会費	610,000	
見学会費	140,000	
研究会費	230,000	
年次大会費	50,000	
支部ホームページ	155,000	
その他事業費	363,000	
管理費支出	3,385,100	
交通費	172,000	
通信費	125,000	
消耗品費	55,000	
会議費	13,000	
総会費	197,000	
役職会費	180,000	
支部長会議費	335,000	
委託経費	2,235,000	
雑費	73,100	
事業活動費支出計	5,763,100	
事業活動収支差額	0	
II. 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
各種発基金取崩収入	0	
引当金戻入収入	0	
発展事業資金収入	0	
投資活動収入計	0	
2. 投資活動支出		
各種基金取得支出	0	
引当金繰入支出	0	
発展事業資金繰入支出	0	
投資活動支出計	0	
投資活動収支差額	0	
III. 財務活動収支の部		
1. 財務活動収入	0	
2. 財務活動支出	0	
財務活動収支差額	0	
IV. 予備費支出	0	
当期予算収支差額	0	
前期繰越予算収支差額	0	
次期繰越予算収支差額	0	

2025年度 予算 -支部明細-

科 目	北海道	東北	東海北陸	関西	中国
I. 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
本部交付金	450,000	474,000	620,000	2,480,000	400,000
研究会等補助金収入	0	0	0	30,000	0
事業収入	0	0	0	400,000	0
連合大会	0	0	0	0	0
講習会収入	0	0	0	300,000	0
講演会収入	0	0	0	0	0
見学会収入	0	0	0	0	0
研究会収入	0	0	0	100,000	0
年次大会	0	0	0	0	0
雑収入	0	0	0	100	0
連合大会繰入金	0	0	0	0	0
事業活動収入計	450,000	474,000	620,000	2,910,100	400,000
2. 事業活動支出					
①事業費支出	250,000	368,000	430,000	560,000	180,000
連合関係費	100,000	130,000	80,000	0	150,000
講習会費	0	10,000	0	200,000	0
講演会費	150,000	110,000	100,000	70,000	0
見学会費	0	40,000	100,000	0	0
研究会費	0	10,000	0	100,000	0
年次大会費	0	0	0	0	0
支部ホームページ	0	5,000	0	150,000	0
その他事業費	0	63,000	150,000	40,000	30,000
②管理費支出	200,000	106,000	190,000	2,350,100	220,000
交通費	0	2,000	50,000	0	30,000
通信費	20,000	10,000	5,000	25,000	10,000
消耗品費	25,000	5,000	5,000	0	10,000
会議費	0	3,000	0	0	0
総会費	15,000	25,000	70,000	0	55,000
役職会費	15,000	5,000	25,000	75,000	40,000
支部長会議費	120,000	50,000	25,000	0	55,000
委託経費	5,000	3,000	10,000	2,200,000	10,000
雑費	0	3,000	0	50,100	10,000
事業活動支出計	450,000	474,000	620,000	2,910,100	400,000
事業活動収支差額	0	0	0	0	0
II. 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
各種基金取崩収入	0	0	0	0	0
引当金戻入収入	0	0	0	0	0
発展事業資金戻入収入	0	0	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0	0	0
2. 投資活動支出					
各種基金取得支出	0	0	0	0	0
引当預金繰入支出	0	0	0	0	0
発展事業資金繰入支出	0	0	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0	0	0
III. 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0
IV. 予備費支出					
当期収支差額	0	0	0	0	0
次期繰越金	0	0	0	0	0
収支差額	0	0	0	0	0

(単位:円)

[illegible]

2024年度役員・委員等名簿

(2025年3月31日現在)

注) 氏名欄の「→」は、任期中の交代を示す。

(1) 役員・代議員

*印：代表代議員

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
会 長	鈴木教洋	日立総合計画研究所	代議員	角田貢	日本体育大学
次期会長	藤英雄	慶應義塾大学	〃*	金藤正直	法政大学
副 会 長	境田慎一	東京大学	〃	木下延博	N H K
〃	松田一朗	東京理科大学	〃	久保尋理	千葉大学
〃	森本雅和	兵庫県立大学	〃	黒田藤真	東北大学
〃	藤井俊彰	名古屋大学	〃	佐藤誠勝	国立情報学研究所
編 集 長	亀山口晴彦	早稲田大学	〃*	菅野直一	日本テレビ
総務担当	樋井里砂	N H K	〃*	杉浦孝聖	KDDI総合研究所
〃	藤坂東幸圭	北九州市立大学	〃	高木博樹	N H K 福岡
会計担当	三木圭輔	TBS テレビ	〃	高橋裕一	九州工業大学
〃	加藤晴久	KDDI総合研究所	〃*	田良島周平	東京農工大学
調査担当	森本聡文	フジテレビ	〃	辻合秀一	電気通信大学放
〃	小池崇好	法政大学	〃	辻鶴岡	NTTコミュニケーションズ
編集担当	藤崎英一	N H K	〃	富吉映登	富山大学
〃	秋田純一	金沢大学	〃*	馬場賢欣	鈴鹿医療科学大学
企画担当	入江豪治	東京理科大学	〃	原澤大介	シヤープ
監 事	川前啓二	デクセリアルズ	〃	星沢内崎	福井工業大学
代 議 員	石井茂彦	N H K 財団	〃	宮崎勝美	N H K
〃	浅野直紀	N H K 仙台	〃	宮崎美昌	テレビ新広島
〃	洗井彦宏	N H K	〃	宮崎俊仁	日立
〃	居相直紀	N H K	〃	宮崎昌彦	ブリルニクス・ジャパン
〃	石鍋隆彦	N H K	〃	森住原内	大阪公立大学
〃	石橋豊宏	東北大学	〃	柳山内	N H K
〃	伊藤泰規	愛知産業大学	〃	山内士我	A G C
〃	今西宏生	N H K 財団	〃	山横博	KDDI総合研究所
〃	大倉史一	愛媛朝日テレビ	〃	吉田仁	N H K 札幌
〃	大槻博晋	大阪大学	〃	和栗敏	岡山県立大学
〃*	小野木一	N H K	〃		テレビ北海道
〃	大日川聡	読売テレビ	〃		N T T
		C B C テレビ			N H K 松山

(2) テストチャート委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	日下部裕一	N H K	委 員	藤井里砂	N H K
代表幹事	加藤晴久	KDDI総合研究所	〃	藤崎好英	N H K
委 員	森本聡	フジテレビ	〃	岩鼻幸男	事務局 長
			〃	→玉乃井慎児	〃

(3) 映像情報メディア発展事業資金運営委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	森本雅和	兵庫県立大学	委 員	三木圭輔	N T T
代表幹事	坂東幸浩	北九州市立大学	〃	加藤晴久	KDDI総合研究所
委 員	藤井里砂	N H K	〃	森本聡	フジテレビ

(4) 広報委員会 (WebIT 化委員会統合)

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	松田一朗	東京理科大学	委 員	藤井里砂	N H K
代表幹事	秋田純一	金沢大学	〃	入江豪	東京理科大学

(5) 国際連携委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長	秋田純一	金沢大学	委 員	樋口晴彦	日立
代表幹事	入江豪	東京理科大学	〃	森本聡	フジテレビ

(6) 長期計画検討委員会（学会活性化委員会統合）

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 代表幹事 委員	鈴木 教 洋 樋口 晴 彦 藤 井 亜里砂	日立総合計画研究所 日 立 N H K	委 員 "	秋 田 純 一 坂 東 幸 浩	金 沢 大 学 北九州市立大学

(7) 代議員選挙委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 委員	伊 藤 崇 之 会 津 昌 夫	N H K 財 団 リ ア ン	委 員 "	本 間 康 文 玉乃井 慎 児	N E C 事 務 局 長

(8) 電気・情報関連学会連絡協議会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員	樋口 晴 彦	日 立	委 員	藤 井 亜里砂	N H K

(9) フェロー選定委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 副委員長 幹 事 委員 (代議員) " (研究委員会) " "	松 田 一 朗 藤 井 俊 彰 藤 井 亜里砂 近 松 仁 志 小野木 晋 佐 藤 誠 樹 高 橋 裕 将 池 辺 篤 之 中 村 下 延 博	東京理科大学 名古屋大学 N H K 中 京 テ レ ビ 讀 賣 テ レ ビ 日 本 テ レ ビ 電 気 通 信 大 学 北 海 道 大 学 静 岡 大 学 N H K	委 員 " " " " " (フェロー) "	村 田 英 一 原 澤 賢 充 村 松 正 吾 名 手 久 貴 上 田 哲 三 高 木 康 博 角 田 貢 整 内 藤 真 宏 河 北 真 宏	山 口 大 学 N H K 新 潟 大 学 東京工芸大学 パナソニックインダストリー 東京農工大学 日本体育大学 KDDI 総合研究所 大阪工業大学

(10) 名誉会員

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
泉 武 博 伊 東 晋 一 岩 崎 俊 一 内 田 龍 男 江 藤 良 純 榎 並 和 雅 大久保 榮 彦 奥 田 友 彌	小 沢 慎 治 小野寺 正 雄 金 出 武 雄 久保田 啓 一 沢 辺 栄 一 末 松 安 晴 関 田 詳 行 高 畑 文 雄	武 田 康 嗣 谷 岡 健 吉 谷 本 正 幸 寺 西 信 一 永 井 研 二 中 嶋 正 之 中 村 慶 久	西 澤 台 次 西 山 博 一 長谷川 伸 明 長谷川 豊 律 羽 鳥 好 二 濱 崎 襄 三 林 崎 宏 博 原 島	吹 抜 敬 彦 村 上 仁 己 森 尾 稔 薫 矢 野 幸 雄 山 田 英 彦 山 本 武 彦 吉 野 武 彦 Om. P. khushu Carlos A. Paz de Araújo

(11) 北海道支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長 庶務幹事 " 会計幹事 "	山 内 史 彦 三 浦 裕 之 金 子 健 二 加 藤 慎 太 郎 佐々木 淳 一	N H K 札 幌 北海道文化放送 N H K 札 幌 札幌テレビ放送 北海道テレビ放送	運 営 委 員 " " " "	武 村 賢 司 池 田 修 典 土 橋 宜 史 和 田 直 夫 長 尾 友 夫	北 海 道 放 送 テ レ ビ 北 海 道 北 海 道 大 学 北海道科学大学 総務省北海道総合通信

(12) 東北支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	工 藤 栄 亮	東北工業大学	運 営 委 員	鈴 木 辰 彦	トークネット
庶 務 幹 事	金 義 鎮	東北学院大学	〃	加 藤 純 雄	ダイヤモンドパーソナル
〃	佐々木 剛	N H K 仙台	〃	芝 田 正 泉	東北放送
会 計 幹 事	中 谷 好 孝	東 日 本 放 送	〃	嵯 峨 藤 正	仙台放送
〃	中 今 野 徳 男	N H K 仙 台	〃	加 藤 毅 健	宮城テレビ放送
運 営 委 員	藤 掛 入 夫	東 北 大 学	〃	佐 藤 田 正 拓	青森テレビ
〃	塩 黒 田 理	東 北 大 学	〃	須 原 秀 敏	秋田テレビ
〃	黒 木 戸 博 聡	東 北 工 業 大 学	〃	峰 安 田 藤 孝	岩手朝日テレビ
〃	寫 田 中 友	日 本 大 学	〃	安 浅 野 宏 茂	山 形 放 送
〃		東北総合通信局	〃		福 島 テレ ビ
					N H K 仙 台

(13) 東海・北陸支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	日 向 毅	N H K 名 古 屋	運 営 委 員	白 井 正 年	東 海 テレ ビ
庶 務 幹 事	祖 父 江 貴 彦	N H K 名 古 屋	〃	近 松 仁 志	中 京 テレ ビ
〃	永 田 基 博	総務省東海総合通信局	〃	天 野 景 之	テ レ ビ 愛 知
会 計 幹 事	大 日 川 聡 一	C B C テレ ビ	〃	筒 井 宏 隆	名 古 屋 テレ ビ
〃	阿 部 雅 夫	N H K 金 沢	〃	櫻 井 正 和	C B C テレ ビ
運 営 委 員	藤 井 俊 彰	名 古 屋 大 学	〃	小 林 山 彦	テ レ ビ 静 岡
〃	田 村 哲 嗣	岐 阜 大 学	〃	守 山 正 純	N H K 名 古 屋
〃	村 田 博 司	三 重 大 学	〃	秋 田 海 彰	金 沢 大 学
〃	青 木 徹 郎	静 岡 大 学	〃	東 辻 秀 一	福 井 大 学
〃	布 目 敏 彦	名 古 屋 工 業 大 学	〃	北 出 哲 也	富 山 大 学
〃	塚 田 敏 彦	愛 知 工 業 大 学	〃		北 陸 放 送
〃	中 屋 敷 安 則	総務省東海総合通信局			

(14) 関西支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	田 中 雄 一	大 阪 大 学	運 営 委 員	大 西 浩 之	パナソニックコネクト
庶 務 幹 事	大 倉 史 生	大 阪 大 学	〃	松 井 民 夫	毎 日 放 送
〃	富 吉 正 暎	シ ャ ー プ	〃	茅 野 大 介	総 務 省
会 計 幹 事	平 田 正 信	朝 日 放 送 テレ ビ	〃	宮 崎 晋 大	大 阪 公 立 大 学
〃	杜 偉 薇	京 都 工 芸 繊 維 大 学	〃	小 野 木 信 大	読 賣 テレ ビ 放 送
運 営 委 員	Siriaraya Panote	京 都 工 芸 繊 維 大 学	〃	中 谷 祐 太 郎	朝 日 放 送 テレ ビ
〃	宮 本 伸 一	和 歌 山 大 学	〃	岩 本 信 彦	大 阪 電 気 通 信 大 学
〃	浦 西 友 樹	大 阪 大 学	〃	金 城 信 雅	N H K 大 阪
〃	酒 澤 茂 之 行	大 阪 工 業 大 学	〃	森 本 田 貴 史	兵 庫 県 立 大 学
〃	椎 野 貴 行	関 西 テレ ビ			シ ャ ー プ

(15) 中国支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	小 平 俊 也	広島ホームテレビ	運 営 委 員	山 内 仁 賢	N H K 広 島
庶 務 幹 事	檜 垣 徹 哲	広 島 大 学	〃	高 橋 秋 二	広 島 市 立 大 学
〃	鳴 海 雅 也	N H K 広 島	〃	林 田 浩 昭	山 口 朝 日 放 送
会 計 幹 事	加 藤 雅 也	広 島 テレ ビ	〃	佐 原 光 範	R S K 山 陽 放 送
〃	湯 木 慎 治	N H K 広 島	〃	前 田 欣 成	N H K 広 島
運 営 委 員	浅 野 良 治	山陰中央テレビジョン放送	〃	檜 山 木 健 太 郎	テ レ ビ 新 広 島
〃	小 笠 原 通 晴	中国総合通信局	〃	鈴 尾 関 孝 史	テ レ ビ 山 口
〃	春 井 達 也	日本海テレビジョン放送	〃	恵 良 勝 治	福 山 大 学
〃	増 谷 一 昭 彦	NHKテクノロジーズ	〃	太 田 和 樹	山 口 放 送
〃	道 西 博 行	中 国 放 送	〃	青 山 秀 章	岡 山 放 送
〃		岡山理科大学	〃		山 陰 放 送

(16) 四国支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	今 西 勝 規	愛媛朝日テレビ	運 営 委 員	乗 松 義 弘	南海放送
庶 務 幹 事	谷 岡 卓 次	愛媛朝日テレビ	〃	野 中 宏 次	テレビ愛媛
〃	大 西 智 也	N H K 松 山	〃	島 矢 勝 久	あいテレビ
会 計 幹 事	木 下 雄 介	N H K 松 山	〃	松 岡 茂 一	あいち放送
会 計 監 査	岡 本 好 弘	愛 媛 大 学	〃	横 山 雄 一	高知放送
運 営 委 員	岡 本 好 弘	愛 媛 大 学	〃	高 嶋 健 吾	テレビ高知
〃	村 上 理 一	総務省四国総合通信局	〃	原 田 祐 紀	高知さんさんテレビ
〃	和 栗 敏	N H K 松 山	〃	岩 井 芳 敏	四 国 放 送
					西 日 本 放 送

(17) 九州支部

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
支 部 長	杉 浦 孝 直	N H K 福 岡	運 営 委 員	加 藤 剛	NHKテクノロジーズ
庶 務 幹 事	松 岡 剛 志	九 州 産 業 大 学	〃	萩 原 秀 一	N T T 西 日 本
〃	瀧 口 和 輝	N H K 福 岡	〃	東 條 悟 志	九州総合通信局
会 計 幹 事	小 野 晃 生	T V Q 九 州 放 送	〃	筒 口 拳 一	崇 城 大 学
〃	平 原 一 彦	N H K 福 岡	〃	佐 藤 雄 孝	熊 本 放 送
運 営 委 員	芹 川 聖 一	九 州 工 業 大 学	〃	藤 本 孝 文	長 崎 大 学
〃	野 田 清 茂	福 岡 放 送	〃	松 崎 功 之	長 崎 放 送
〃	井 上 清 平	九 州 大 学	〃	鹿 嶋 雅 重	鹿 児 島 大 学
〃	山 下 海 剛	R K B 毎 日 放 送	〃	小 川 重 貴	南 日 本 放 送
〃	坂 井 剛 幸	九 州 朝 日 放 送	〃	小 畑 貴 嗣	宮 崎 放 送
〃	岩 屋 宏	テ レ ビ 西 日 本	〃	後 藤 昌 弘	大 分 放 送

(18) 技術委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	相澤清晴	東京大学	委員	金森聡史	N E C
幹事	高村誠之	法政大学	〃	吉田大将	北海道大学
〃	加藤久聡	KDDI 総合研究所	〃	池辺村篤	静岡大学
特別理事	森本俊彰	フジテレビ	〃	中村下田	N H K
委員	藤井里砂	名古屋大学	〃	木村澤賢	山口大学
〃	藤三圭輔	N H K	〃	原村松正	N H K
〃	藤崎好英	N H K	〃	村上手久	新潟大学
〃	笹出晋也	放送サービス高度化推進協会	〃	名田哲康	東京工芸大学
〃	児玉和良	国立情報学研究所	〃	上木高角	パナソニックインダストリー
〃	渡邊亮之	KDDI 総合研究所	〃		東京農工大学
〃	品地貴	T B S テレビ	〃		日本体育大学

<研究委員会>

(19) 情報センシング研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	池辺将之	北海道大学	委員	浄法寺佑	浜松ホトニクス
幹事	小室孝弘	埼玉大学	〃	白髭大貴	キヤノン
〃	下ノ村和郎	立命館大学	〃	樽木久征	東芝デバイス&ストレージ
〃	香川景一郎	静岡大学	〃	大澤雅人	オリンパスメディカルシステムズ
〃	徳田嵩人	東京工業大学	〃	大澤俊大	ブリルニクスジャパン
〃	黒田理哉	東北大学	〃	藤澤大介	三菱電機
〃	林田哲哉	N H K	〃	佐藤守航	ソニーセミコンダクタソリューションズ
〃	山下雄一郎	T S M C	〃	船水相	ニ コ ン
〃	大倉俊介	立命館大学	〃	韓 萬	ブリルニクスジャパン
〃	竹本良章	メ ム ス コ ア	〃	安 富 啓	静岡大学
委員	難波正和	N H K	〃	山 田 翔 太	パナソニックインダストリー
〃	八重樫浩	ティアテック			

(20) 情報ディスプレイ研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	中村篤志	静岡大学	〃	奥山健太郎	ジャパンディスプレイ
副委員長	中田充	N H K	〃	薄井武順	N H K
幹事	石鍋隆宏	東北大学	〃	長谷川拓哉	東北大学
〃	山口雅浩	東京工業大学	〃	樋口昌芳	物質・材料研究機構
〃	吉田茂人	シャープ	〃	工藤幸寛	工 学 院 大 学

(21) マルチメディアストレージ研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	木下延博	N H K	委員	本間聡	山梨大学
幹事	武吉敦史	富士フイルム	〃	大竹充光	横浜国立大学
〃	加藤大典	秋田大学	〃	大田中輝	九州大学

(22) 放送技術研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	村田英一	山口大学	〃	嶋田中	東芝インフラシステムズ
副委員長	大槻一博	NHK	〃	高樹	長崎大学
〃	橋本靖	フジテレビ	〃	仲田高	国際電気
幹事	川本潤一郎	NHK	〃	丸山猛	古河電気工業
幹事補佐	当山俊一郎	日本テレビ	〃	安江信一	NEC
〃	朝倉慎悟	NHK	(放送現業)	安藤悠	フジテレビ
幹事	田邊慎弘	NTT	〃	長田圭	名古屋テレビ
〃	内田慎彦	TBSテレビ	〃	小野晋二	讀賣テレビ
幹事補佐	岩瀬宗哲	住友電気工業	〃	佐藤誠	テレビ東京
幹事	水本弥江	日本学術振興会	〃	鈴村高政	テレビ朝日
委員	岩崎裕賢	東京農工大学	〃	池田哲	NHK
(放送・通信方式)	杉井二弘	成蹊大学	顧問	伊丹誠道	NHKテクノロジー
〃	中村聡之	北海道大学	〃	大塚吉知	東京理科大学
〃	濱住啓大	神奈川大学	〃	大槻明一	慶応義塾大学
〃	福岡貴実	福井工業高等専門学校	〃	斎藤隆一	放送衛星システム
(無線光)	岡田幸二	NHK	〃	塩沢政幸	香川高等専門学校
〃	齊藤健	奈良先端科学技術大学院大学	〃	高田愛一郎	NEC
〃		千葉大学	〃		名城大学
〃		日本大学	〃		

(23) ヒューマンインフォメーション研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	原澤賢充	NHK	〃	小濱剛	近畿大学
幹事	相田紗織	山口大学	〃	森川大輔	富山県立大学
〃	荻谷光晴	神奈川大学			

(24) メディア工学研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	村松正吾	新潟大学	委員	平野晃昭	関東学院大学
副委員長	東海彰吾	福井大学	〃	細井利憲	NEC
幹事	望月貴裕	NHK	〃	人見康宣	ソニーセミコンダクタソリューションズ
〃	田良島周平	NTTコミュニケーションズ	〃	小池崇文	三菱電機
委員	紺野剛史	富士通	〃	小幡朋和	コニカミノルタ
〃	奥田正浩	北九州市立大学	顧問	春日作男	作新学院大学
〃	金成昌慧	宇都宮大学	〃	大塚佳一	国際高等専門学校
〃	多田昌義	近畿大学	〃	外村佳仁	龍谷大学
〃	青木満一	慶應義塾大学	〃	貴家志人	東京都立大学
〃	伊藤康	東北大学	〃	上倉俊一	東京工芸大学
〃	河村圭修	KDDI総合研究所	〃	吉田和美	福井大学
〃	渡辺弘	拓殖大学	〃	村上山紀	愛知県立大学
〃	小川貴弘	北海道大学	〃	長谷川男	北海道立大学
〃	曾我麻佐子	龍谷大学	〃	田川啓	東京都立大学
〃	横井謙太郎	東芝インフラシステムズ	〃	新井	日本工業大学
〃	入部百合絵	愛知県立大学			

(25) 映像表現&コンピュータグラフィックス研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	名 手 久 貴	東京工芸大学	委 員	馬 場 一 幸	東京工芸大学
副委員長	久 保 尋 之	千葉大学	〃	林 正 樹	ウプサラ大学
幹 事	岡 市 直 人	N H K	〃	森 谷 友 昭	東京電機大学
〃	田 中 賢 一	長崎総合科学大学	〃	中 山 口 裕	朝 日 放 送
〃	Roberto Lopez-Gullier	立 命 館 大 学	〃	山 口 健	日 本 大 学
委 員	泉 政 希	テ レ ビ 東 京	顧 問	小 杉 信	東京都市大学
〃	小 黒 久 史	凸 版 印 刷	〃	佐 藤 甲 癸	湘南工科大学
〃	小 玉 周 平	東京電機大学	〃	吉 川 浩 浩	日 本 大 学
〃	白 石 路 雄	東 邦 大 学	〃	新 谷 幹 夫	東 邦 大 学
〃	田 中 敏 光	名 城 大 学	〃	高 橋 時 市	東京電機大学
〃	竹 内 幸 一	電 気 通 信 大 学	〃	向 井 信 彦	東京都市大

(26) アントレプレナー・エンジニアリング研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	上 田 哲 三	パナソニックインダストリー	委 員	中 村 裕 一 郎	目 白 大 学
副委員長	金 藤 正 直	法 政 大 学	〃	難 波 和 秀	流通経済大学
幹 事	山 田 一 人	法 政 大 学	〃	末 松 千 尋	京 都 大 学
幹 事	石 綿 宏 明	フレッジテクノロジー	〃	本 田 新 九 郎	N T T
〃	都 築 五 夫	01高知ブースター	〃	平 田 貞 代	芝 浦 工 業 大 学
〃	善 本 哲 夫	立 命 館 大 学	〃	松 本 修 一	日本ケーブルラボ
委 員	石 井 正 純	A Z C A	〃	山 本 忠 幸	いちか総合研究所
〃	江 藤 之 雄	一 橋 大 学	〃	横 山 孝 文	摂 南 大 学
〃	榎 本 剛 史	日本コンテンツオルガン	〃	Richard B. Dasher	Stanford University
〃	岡 田 内 厚	岡 田 工 事 部	顧 問	加 納 剛 太	高知工科大学
〃	長 賀 有 津	早 稲 田 大 学	〃	倉 重 光 宏	高知工科大学
〃	加 片 山 誠	大 阪 大 学	〃	富 沢 治 真	高知工科大学
〃	鈴 木 祐 司	住 友 電 気 工 業	〃	平 野 真 哲	福知山公立大学
〃	田 路 則 子	次世代メディア研究所	〃	樺 澤 哲 一	大 阪 大 学
〃	谷 岡 健 吉	法 政 大 学	特別委員	小 川 紘 一	東 京 大 学
		ストーニーブルック大学	〃	Carlos Pazde Araujo	コロラド大学

(27) 立体メディア技術研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	高 木 康 博	東京農工大学	幹 事	藤 井 俊 彰	名古屋大学
幹 事	氏 家 弘 裕	東京情報デザイン専門職大学	〃	桃 井 芳 晴	サムスン日本研究所
〃	圓 藤 知 博	長岡技術科学大学	〃	山 本 健 詞	徳 島 大 学
〃	掛 谷 英 紀	筑 波 大 学	〃	山 本 裕 紹	宇 都 宮 大 学
〃	加 納 正 規	N H K	委 員	河 北 真 宏	大 阪 工 業 大 学
〃	小 池 崇 文	法 政 大 学	〃	木 村 真 治	N T T ド コ モ
〃	陶 山 史 朗	宇 都 宮 大 学	〃	高 橋 秀 也	大 阪 市 立 大 学
〃	高 田 英 明	長 崎 大 学	顧 問	本 田 捷 夫	本田ひかり技研
〃	都 竹 千 尋	名 古 屋 大 学	〃	奥 井 誠 人	情報通信研究機構
〃	堤 公 孝	長 崎 大 学			

(28) スポーツ情報処理研究委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長	角 田 貢	日本体育大学	〃	渡 辺 裕	早 稲 田 大 学
副委員長	北 原 格	筑 波 大 学	〃	野 村 一 路	全国特別支援学校長会「みんなdeスポーツ推進委員会」
幹 事	三ッ峰 秀 樹	N H K 財 団	〃	堀 尾 哲 也	日 本 体 育 大 学
〃	春 山 知 生	N T T ド コ モ	〃	高 橋 翔 也	北 海 道 大 学
〃	三 上 弾 男	工 学 院 大 学	〃	白 旗 和 也	日 本 体 育 大 学
委 員	田 川 憲	東 京 都 立 大 学			
〃	高 橋 正 樹	N H K			

(29) 年次大会実行委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長 事	境 田 慎 一	N H K	委 員	岡 田 実	奈良先端科学技術大学院大学
幹 事	加 藤 晴 久	KDDI 総合研究所	〃	小 野 木 晋	読 賣 テ レ ビ
〃	樋 口 晴 彦	日 立 立	〃	當 山 俊 一 郎	日 本 テ レ ビ
〃	秋 田 純 一	金 沢 大 学	〃	森 川 大 輔	富 山 県 立 大 学
〃	坂 東 幸 浩	下 関 市 立 大 学	〃	望 月 大 貴	N H K
〃	小 池 崇 文	法 政 大 学	〃	小 池 崇 文	三 菱 電 機
委 員	瀧 口 和 輝	N H K 北 海 道	〃	小 白 石 崇 路	東 邦 大 学
〃	池 辺 将 之 芳	北 海 道 大 学	〃	石 綿 宏	フレッヂテクノロジー
〃	樋 口 昌 典	N I M S	〃	石 高 田 英 知	長 崎 大 学
〃	加 藤 大 茂	N H K	〃	春 山 知 生	N T T ド コ モ
〃	塩 川 茂 樹	神 奈 川 工 科 大 学			

(30) 冬季大会実行委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委 員 長 事	松 田 一 朗	東 京 理 科 大 学	委 員	三 枝 健 二	日 本 大 学
幹 事	森 本 聡	フ ジ テ レ ビ	〃	佐 藤 誠	テ レ ビ 東 京
〃	藤 井 亜 里 砂	N H K	〃	内 田 慎	T B S テ レ ビ
〃	入 江 豪 輔	東 京 理 科 大 学	〃	荻 谷 光 晴	神 奈 川 大 学
〃	三 木 圭 輔	T B S テ レ ビ	〃	田 良 島 周 平	NTTコミュニケーションズ
〃	藤 崎 好 英	N H K	〃	横 井 謙 太 朗	東 芝 イ ン フ ラ ス テ ム ズ
委 員	林 田 哲 哉	N H K	〃	岡 市 直 人	N H K
〃	薄 井 武 順	N H K	〃	石 綿 宏	フレッヂテクノロジー
〃	本 間 聡	山 梨 大 学	〃	加 納 正 規	N H K
〃	岩 崎 裕 江	東 京 農 工 大 学	〃	三 ッ 峰 秀 樹	N H K 財 団

(31) 編集委員会 JVCケンウッド

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
編集長 副委員長 〃 編集幹事 (企画担当)	亀山 涉	東京理科大学	編集幹事 (企画担当)	徳永 将之	TVS REGZA
	小池 崇好	法政大学		沼川 宏孝	ソニー
	藤崎 田 沙	NHK		中川 孝淑	NHK
	相田 沢 冴	山口大学		武福 田 将	大阪大学
	穴沢 塚 洸	TBSテレビ		藤堀 田 俊	パナソニックホールディングス
	飯泉 藤 政正	総務省		堀内 俊光	大阪電気通信大学
	伊藤 木 成	テレビ東京		牧野 山 治	KDDI総合研究所
	茨木 村 智	フジテレビ		森山 吉 達	中央大学
	為河 合 香	JVCケンウッド		森山 吉 達	東京工芸大学
	熊木 谷 火	NHK		山吉 達洋	NEC
	伊谷 裕一	富士フイルム		吉田 邊 大	東京大学
	今野 川 晃	N三菱電機		渡部 大志	日立
	笹川 田 浩	三菱電機			NHK
	繁清水 美都	岩手大学			埼玉工業大学
	→重岡 圭	奈良先端大学院大学			
	白木 厚司	大阪大学			
	先崎 健	テレビ朝日			
	高橋 桂	テレビ朝日			
	辰橋 富秀	千葉大学			
	田中 村 公丈	N古屋大			
	堤寺 岡	日豊橋技術科学大学			
			(海外文献部門)		
			部門委員長	大久保 翔太	KDDI総合研究所
			部門副委員長	大久保 哲	NHK
			部門委員	曾我部 陽光	NHT
				加藤 貴之	東芝インフラシステムズ
				三沢 天龍	三菱電機
			(ニュース部門)		
			部門委員長	中野 信一	日本テレビ
			部門副委員長	浜田 宏	京大
			部門委員	新保 丸章	NEC
				熊原 大	NHK
				藤原 章	法政大

(32) 論文委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員 長 アドバイザー 幹 事 委 員	安 藤 慎 吾 亀 山 大 我 吉 田 好 英 藤 崎 恭 平 海 野 康 平 一松 崎 裕 司 大 川 武 順 一薄 井 芳 邦	湘 南 工 科 大 学 早 稲 田 大 学 N T T N H K K D D I 総合研究所 K D D I 総合研究所 N H K N H K N H K	(英語論文編集委員会) 委員 長 副委員長 " 委 員	安 藤 慎 吾 大 川 裕 司 一薄 井 武 順 海 野 恭 平 一松 崎 康 平 飯 山 将 晃 伊 丹 誠 井 手 一 郎 氏 家 弘 裕 太 田 淳 小 川 貴 弘 甲 藤 二 郎 酒 澤 茂 之 佐々木 久 幸 西 村 仁 志 新 田 直 子 橋 本 真 幸 長谷山 美 紀 羽 鳥 康 裕 人 見 康 宣 美 濃 導 彦 村 田 英 一 山 崎 俊 彦 Nam Ik Cho Alexander G. Hauptmann Benoit Huet Tae Kyoon Kim Jianquan Liu Chong-Wah Ngo Antonio Ortega Jong-Il Park Ming-Hsuan Yang	湘 南 工 科 大 学 N H K N H K K D D I 総合研究所 K D D I 総合研究所 滋 賀 大 学 東 京 理 科 大 学 名 古 屋 大 学 東京情報デザイン専門学校 奈良先端大学院大学 北 海 道 大 学 早 稲 田 大 学 大 阪 工 業 大 学 N H K K D D I 総合研究所 関 西 大 学 東 洋 大 学 北 海 道 大 学 東 北 大 学 ソ ニ ー 理 化 学 研 究 所 山 口 大 学 東 京 大 学 Seoul National University Carnegie Mellon University E u r e c o m E T R I N E C City University of Hong Kong University of Southern California Hanyang University University of California, Merced
(和文論文編集委員会) 委員 長 副委員長 " 委 員	安 藤 慎 吾 吉 田 大 我 平 野 芳 邦 秋 田 純 一 朝 倉 慎 悟 大 竹 充 小 玉 周 平 杉 田 純 一 曾 我 麻 佐 子 多 田 昌 裕 田 中 賢 一 筒 井 弘 孝 堤 公 裕 戸 泉 貴 裕 外 山 史 昌 永 井 隆 昌 中 村 篤 志 羽 鳥 康 裕 文 仙 正 俊 本 村 玄 一 桃 井 芳 晴 山 田 一 人 吉 本 早 苗	湘 南 工 科 大 学 N T T N H K 金 沢 大 学 N H K 横 浜 国 立 大 学 東 京 電 機 大 学 東京医療保健大学 龍 谷 大 学 近 畿 大 学 長崎総合科学大学 北 海 道 大 学 長 崎 大 学 N E C 宇 都 宮 大 学 N T T 静 岡 大 学 東 北 大 学 福 岡 大 学 N H K サムスン日本研究所 法 政 大 学 広 島 大 学			

(33) 選奨委員会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
委員長 代表幹事 幹事	境 田 慎 一 樋口 晴彦 亀山 渉 藤井 里砂 坂東 幸浩 三木 圭輔 加藤 晴久 森本 聡文 小池 崇好 藤崎 純英 秋田 英一 入江 豪	NHK営業サービス 立大学 早稲田大学 NHK 下関市立大学 TBSテレビ KDDI総合研究所 フジテレビ 法政大学 NHK 金沢大学 東京理科大学	委員	笹 出 晋 司 橋 本 将 池 辺 篤 中 村 之 木 下 志 村 田 博 原 澤 英 村 松 賢 名 手 正 上 田 久 高 木 貴 角 田 三 田 博 田 貢	放送サービス高度化推進協会 フジテレビ 北海道大学 北岡大学 NHK 山口大学 NHK 新潟大学 東京工芸大学 パナソニックインダストリー 東京農工大学 日本体育大学

(34) 「技術振興賞」進歩開発賞選考専門部会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部長 代表幹事 幹事 委員	笹 出 晋 司 加藤 晴久 樋口 晴彦 藤井 里砂 倉掛 卓也 森本 靖 入江 聡 白髭 豪 中村 貴志 木下 博 長田 介 三枝 二 中原 村 聡 澤 賢 充	放送サービス高度化推進協会 KDDI総合研究所 日立 NHK NHK フジテレビ フジテレビ 東京理科大学 キヤノン 静岡大学 NHK 名古屋テレビ 日本大学 神奈川大学 NHK	委員	村 松 正 吾 名 手 久 貴 上 田 哲 三 高 木 康 博 角 田 貢 内 田 慎 伊 藤 史 天 野 徹 我 山 一 蝶 野 眞 相 羽 慶 大 西 英 土 居 浩 長 谷 清 近 藤 正 剛 史	新潟大学 東京工芸大学 パナソニックインダストリー 東京農工大学 日本体育大学 TBSテレビ フジテレビ イメージングプロダクツ&ソリューションズ パイオニア NEC JVCケンウッド パナソニックコネク 日本テレビ テレビ朝日 テレビ東京

(35) 「技術振興賞」コンテンツ技術賞選考専門部会

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部長 代表幹事 幹事 委員	橋 本 靖 名 手 久 貴 三木 圭輔 内田 慎 藤崎 好英 入江 豪 丸山 良 藤原 徹 小池 幸 品佐 貴 佐藤 誠 岩尾 洋 金 城 信彦	フジテレビ 東京工芸大 TBSテレビ TBSテレビ NHK 東京理科大学 NHK 日本テレビ テレビ朝日 TBSテレビ テレビ東京 フジテレビ NHK大阪	委員	瀧 口 和 輝 谷 知 紀 英 榊 原 吉 伸 玉 木 雅 之 筒 井 宏 隆 杉 野 輝 雄 下 別 府 太 芳 田 浩 郎 天 野 景 一 松 林 正 和 臼 井 正 年 武 居 裕 一 宮 賢	NHK福岡 讀賣テレビ 中京テレビ 朝日放送テレビ 名古屋テレビ 毎日放送 RKB毎日放送 テレビ大阪 テレビ愛知 関西テレビ 東海テレビ 日立国際電気 NEC

役 名	氏 名	勤務先	役 名	氏 名	勤務先
部長 代表幹事	加藤 晴久	KDDI総合研究所	委員	中村 篤志	静岡大学
幹事	森本 晴彦	フジテレビ	〃	村下 延一	NHK
〃	樋口 晴彦	日立	〃	山田 英光	山口大学
委員	藤井 里砂	NHK	〃	荻谷 晴	神奈川大学
〃	坂東 幸浩	下関市立大学	〃	村松 正吾	新潟大学
〃	小池 崇文	法政大学	〃	名手 久貴	東京芸大
〃	藤崎 好英	NHK	〃	上田 哲三	パナソニックインダストリー
〃	秋田 純一	金沢大学	〃	高木 博	東京農工大
〃	池辺 将之	北海道大学	〃	角田 博貢	日本体育大

織毅也希介史武亭行織市隆吾功司太豐希健孝博之之昌瓊貴玄治雄治剛子人志太哲一信吾我邦順平	名沙	智政裕正	成智香晃清惠浩厚健富秀	公文将孝宏淑将	俊光達	洋隼大翔	宏	慎大芳武恭
氏田澤塚	谷藤木村合谷野川岡田木崎巳村條	岡永川沼	田田内野吉山肩邊部保久田野藤田野井野	相穴飯泉伊伊茨為河熊今笹重繁白先辰田中堤寺德中長武福藤堀牧森森山渡渡大大浜中安吉平薄海	久			
役論・鈴	功・業	役論・鈴	功・業	役論・鈴	功・業	役論・鈴	功・業	役論・鈴
夫文淳彦豐誠宏一治道夫秀人志郎淳則明三雄一豐勝明行樹弘吉英郎一整輔次誠治拓一雄人	昌孝紀	泰圭丈吉幸正一啓文	正正一英真	博祥和康健紀愛信	英台秀	修哲和		
氏津木井井橋丹藤津野塚柳子倉取野池柴林宮藤藤田野浦	嶋岡知竹西藤須澤川川沢本橋上	谷						
会青洗石石伊伊梅浦大片金上香岸小小小齋佐柴菅杉関平滝谷谷都寺内中西長平星松三村								
一和朗彰涉彦砂浩輔久聡文英一豪治二司靖晴也亮之史輔之志博一充吾貴三博貢彦男毅一範規直之雅浩	慎雅一俊	晴重幸圭晴	崇好純	啓晋	清和良貴聡大将篤延英賢正久哲康	史徳	雄光勝孝崇和	
氏田本田井山口井東木藤本池崎田江前井出本澤玉邊地森田辺村下田澤松手田木田内野向中田西浦藤並川	境森松藤龜樋藤坂三加森小藤秋入川石笹橋相兒渡品金吉池中木村原村名上高角山今日田前今杉伊榎吉							